KAWAI

DIGITAL PIANO
LS1
取扱説明書

ご使用前の準備

演奏ガイド

様々な機能を楽しむ

演奏を録音再生する

様々な設定をする

付録

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使いください。

ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ずお守りください。また、お子様がご使用になる場合は、保護者の方がお子様に注意事項を徹底するようお願いいたします。

製品本体に表示されているマークには次のような意味があります。

注 意
感電の危険あり
本体をあけるな

注意：感電防止のため本体の内部を開けないでください。機器の内部にはお客様が修理／交換出来る部品はありません。点検や修理は必ずお買い求めいただいた販売店または同梱の「アフターサービスと音楽教室のご案内」にある、お近くの弊社フィールドサポート担当までご依頼ください。

このマークは感電の危険があることを警告しています。

このマークは注意喚起シンボルです。取扱説明書等に、一般的な注意、警告の説明が記載されていることを表しています。

警告と注意、記号表示について

警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容が記載されています。

注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容が記載されています。

△記号は注意（用心してほしい）を促す内容があることを告げるものです。

⃠記号は禁止（行ってはいけない）の行為であることを告げるものです。

●記号は強制（必ず実行してほしい）したり、指示する内容があることを告げるものです。

警告

100V 以外禁止

電源は必ず AC100V を使う

電圧の異なる電源を使用しないでください。発火の恐れがあります。

付属の電源コードは本機でのみ使用する

付属の電源コード以外を本機で使用しないでください。付属の電源コードを他の機器で使用しないでください。

電源コードを熱器具に近付けたり、無理に曲げたり重い物を載せたりして傷つけたりしない

コードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。

本機を自分で分解、改造しない

この機器の上に花瓶等の液体の物を置いたり、水にぬれるような使い方をしたりしない

故障・感電・発火の原因になります。

水に濡れた手で、電源プラグを抜き差ししない

感電の原因になります。

異常が起こった場合、故障した場合は即座に電源スイッチを切り、コンセントからプラグを抜く

異物を入れない

本機の内部に異物を入れないようにする

水、針、ヘアピン等が入ると、故障やショートの原因になります。

落とさない

本機を落としたり、強い衝撃を加えない

怪我および破損の恐れがあります。

照明用のロウソクなどの裸の火を機器の上に置かない

鍵盤蓋で指などをはさまないよう注意する

鍵盤蓋の開閉にあたっては、蓋と本体の間に手を入れないでください。指をはさんでケガをする恐れがあります。特に小さなお子様には十分ご注意ください。

使用禁止

本機を次のような所では使用しない

- **窓際など直射日光の当たる場所**
- **暖房器具のそばなど極端に温度の高い場所**
- **戸外など極端に温度の低い場所**
- **極端に湿度の高い場所**
- **砂やホコリの多い場所**
- **振動の多い場所**

故障の原因になります。

⚠ 注意

プラグを抜く

電源プラグを抜くときは、必ずプラグ部分を持って抜く

コードを引っ張るとコードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。

プラグを抜く

落雷の恐れのある時や長時間使用しない時は必ず電源プラグを抜く

感電・火災及び故障の原因になる恐れがあります。

電源を切る

コード類を接続するときは、各機器の電源を切って行う

本機や接続機器の故障の原因になります。

持ち運びは 2 人で行う

電源プラグは直ぐに抜くことが出来る状態にしておく

この機器は電源スイッチを切った状態でも主電源から完全に遮断されているわけではありません。完全に遮断するためには、電源プラグを抜いてください。プラグは直ぐに抜くことが出来る状態にしておいてください。

上に乗らない

本機の上に乗ったり、重い物を乗せたりしない

変形したり、倒れる恐れがあり、故障やけがの原因になります。

使用しない

イスは次のように使用しない

- **イスを不安定な場所に置かない**
- **イスで遊んだり、イスを踏み台にしたりしない**
- **イスには 2 人以上で座らない**
- **イスに座ったまま高さ調節をしない（調節機能付きの場合）**
- **ネジの緩んだイスに座らない**

イスが倒れたり、指をはさむ恐れがあり、けがの原因になります。長時間使用してイスのボルトがゆるんだ場合は、付属のスパナで締め直してください。

不安定な場所に置かない

怪我や破損の恐れがあります。

タコ足配線禁止

ヘッドホンは大音量で長時間使用しない

聴力低下の原因になる恐れがあります。

各種取り付けネジや、［POWER］スイッチなどの小さな部品をお子様が誤って飲み込むことの無いよう管理してください

お手入れについて

本体	乾いた柔らかい布で拭いてください。
ペダル	表面が汚れた場合、乾いた食器洗い用スポンジで拭くと綺麗になります。布ではかえって曇ってしまう場合があります（ゴールドのペダルのみ）。サビ落し用の磨き剤ややすり等は使用しないでください。
ベンジンやシンナーで本機を拭かない	色落ちや、変形の原因になります。清掃するときは、乾いた柔らかい布で拭いてください。

* お手入れの際は、電源コードを抜くこと。

保証書について

本製品をお買い求めの際、販売店で必ず保証書の手続きを行って下さい。保証書に販売店の印やお買い上げ日の記入が無い場合は、保証期間中でも修理が有償になることがあります。

保証書は、本取扱説明書と共に大切に保管ください。

修理について

万一異常がありましたら直ちに電源スイッチを切り、本機の電源プラグを抜いて、購入店または弊社へご連絡ください。弊社連絡先は取扱説明書の裏表紙に記載してあります。

このたびは、KAWAIデジタルピアノLS1をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
本製品を存分にお楽しみいただき、末永くご愛用いただくために、
この取扱説明書をよくお読みの上、大切に保管くださいますようお願い致します。

取扱説明書について

取扱説明書では、本製品をすぐお使いになれるよう基本的な演奏ガイドから、様々な機能を使いこなすための操作まで説明しています。また付録には本製品の組立方法などの資料がございます。

表記について

この取扱説明書では、操作方法を簡潔に説明するために［　］で囲まれた文字はボタン名を表し、［PIANO］ボタンのように表記します。

特徴

本格的なピアノタッチを実現

弱打から強打まで繊細な表現が可能なグランドピアノに近い弾き心地と優れた連打性能を備えたレスポンシブ・ハンマー・アクションII（RH II）鍵盤を搭載。さらに、優れた吸湿性と象牙の風合いを備えた象牙調仕上げ（アイボリータッチ）により、汗がついても滑りにくく心地よいタッチの感触が得られます。また、弱く弾いたときに感じられるアコースティックピアノ特有のクリック感を再現するレットオフフィールも搭載。細やかなタッチの感触まで余すことなく再現します。

カワイコンサートグランドピアノ EX の音を様々なタッチで 88 鍵全て録音した『88 鍵ステレオサンプリング、プログレッシブハーモニックイメージング音源（PHI）』

世界最高峰のピアノコンクールであるショパン国際ピアノコンクールで実際に使用したカワイコンサートグランドピアノ EX の音を、88 個の鍵盤一つ一つについて丁寧に録音した秀逸のピアノ音を搭載しています。さらに鍵盤を弾く強さにより大きく変化するピアノ音を様々な強さで録音することにより、従来の電子ピアノを凌駕する表現力を備えました。
また、ダンパーペダルを踏んだときの響板やフレームの響きを再現した「ダンパーレゾナンス」でグランドピアノの音の響きをディテールまで再現します。

グランドピアノのペダルの踏み心地を再現した『グランドフィールペダルシステム』

ピアノ演奏に欠かすことができないのがペダル（ダンパー、ソフト、ソステヌート）です。
本製品では 3 本すべてのペダルにおいて、グランドピアノの踏み込みの重さを解析。デジタルピアノとして最高レベルのペダル操作感覚を実現しました。また、ダンパーペダルは音の伸びを加減できるハーフペダルにも対応。どこまでもグランドピアノに近い演奏感覚を生み出します。

付属品（お確かめ下さい）

- ☐ 保証書
- ☑ 取扱説明書（本書）
- ☐ カワイデジタルピアノ　ユーザー登録のご案内
- ☐ 音楽教室のご案内
- ☐ 楽譜集のご案内
- ☐ クラシカルピアノコレクション（楽譜集）
- ☐ コンサートマジック曲集　払込取扱票
- ☐ 高低自在椅子
- ☐ 電源コード
- ☐ ヘッドホン
- ☐ ヘッドホンフック
- ☐ スタンド組立説明書

目次

2　**安全上のご注意**

5　**目次**

ご使用前の準備

6　**各部の名称と機能**

8　**鍵盤蓋を開ける / 閉める**

9　**電源を入れる / アジャスターの調整 / 音量を調整する / ヘッドホンを使う**

演奏ガイド

10　**いろいろな音色を楽しむ**

11　**ペダルを使う**

12　**デュアルモード**

13　**4 ハンズモード（連弾演奏）**

14　**リバーブ（残響）**

15　**タッチ（鍵盤を弾く強さによる音量）**

16　**トランスポーズ（鍵盤の調）**

17　**メトロノーム**

19　**パネルロック**

様々な機能を楽しむ

20　**デモ曲を聴く**

22　**レッスン機能を楽しむ**

22　1　練習したい曲を選ぶ

23　2　練習曲を聴く

23　3　片手で練習する

24　**コンサートマジックを楽しむ**

24　1　コンサートマジックとは？

24　2　コンサートマジックを演奏しよう

26　3　コンサートマジック曲を聴いてみよう

演奏を録音再生する

27　**演奏を録音する**

27　**録音した演奏を聴く**

28　**曲を選択する**

29　**録音した演奏を消去する**

様々な設定をする

30　**設定モード**

31　1　チューニング（本体のピッチ）

32　2　音律

34　3　ダンパーレゾナンス（ピアノ音の共鳴音）

35　4　キーオフエフェクト

36　5　ブリリアンス（音色の明るさ）

37　6　MIDI 送受信チャンネル

38　7　ローカルコントロール

39　8　マルチティンバーモード

40　9　プログラム（音色）ナンバー送信のON/OFF

41　10 プログラム（音色）ナンバー送信

42　11 オートパワーオフ

付録

43　**MIDI について**

44　**他の機器との接続**

45　**困ったときは？**

46　**LS1 の組み立て方**

50　**LS1 仕様**

51　**各音色に対応する送受信プログラムナンバー一覧**

52　**KAWAI [Model LS1] MIDI インプリメンテーションチャート**

裏表紙　お問い合わせ先

各部の名称と機能

①
MASTER VOLUME
MIN
MAX
②
CONCERT MAGIC
③
LESSON
DEMO
④
PIANO
E.PIANO/ ORGAN
OTHERS
book
left
right
song 1
song 2
song 3
⑤
⑥
VALUE
⑦
REVERB
⑧
METRONOME
TEMPO
BEAT
VOLUME
⑨
RECORDER
PLAY / STOP
REC
⑩
TOUCH
⑪
TRANSPOSE
FUNCTION
⑫
POWER
⑬
PHONES
⑭
⑮
OUT
IN
MIDI
PEDAL

①［MASTER VOLUME］スライダー
内蔵スピーカーやヘッドホンから出力される音量を調整する際に使用します。

②［CONCERT MAGIC］ボタン
コンサートマジックモードに入る際に使用します。

③［LESSON］ボタン
レッスンモードに入る際に使用します。

④音色ボタン
音色を選択する際に使用します。
レッスンや録音時にパート選択のためにも使用します。

⑤ディスプレイ
音色番号やテンポなどの値を表示します。
※あらかじめ保護用の透明シートが貼り付けてあります。はがしてからご使用下さい。

⑥［VALUE］ボタン
いろいろな値を設定する際に使用します。

⑦［REVERB］ボタン
リバーブ効果を設定する際に使用します。

⑧［METRONOME］ボタン
メトロノームを設定する際に使用します。

⑨［RECORDER］ボタン
演奏を録音、再生する際に使用します。

⑩［TOUCH］ボタン
鍵盤を弾く強さと音量の関係を設定する際に使用します。

⑪［TRANSPOSE］ボタン
弾き方を変えずに移調する際に使用します。

⑫［POWER］スイッチ
電源をON/OFFするスイッチです。ご使用後は必ず電源を切ってください。
※本製品は自動的に電源を切るオートパワーオフ機能を備えています。（P.42）

⑬［PHONES］端子
ヘッドホンを接続する端子です。ヘッドホンは2つまで接続できます。

⑭［MIDI IN/OUT］端子
MIDI規格に対応している楽器と接続する端子です。

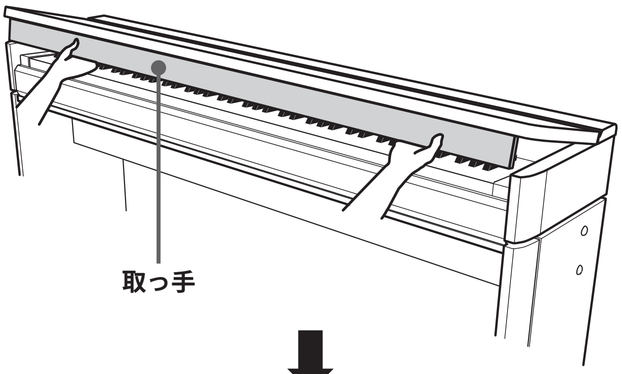
⑮［PEDAL］端子
ペダルユニットから出ているペダルケーブルを接続する端子です。

鍵盤蓋を開ける / 閉める

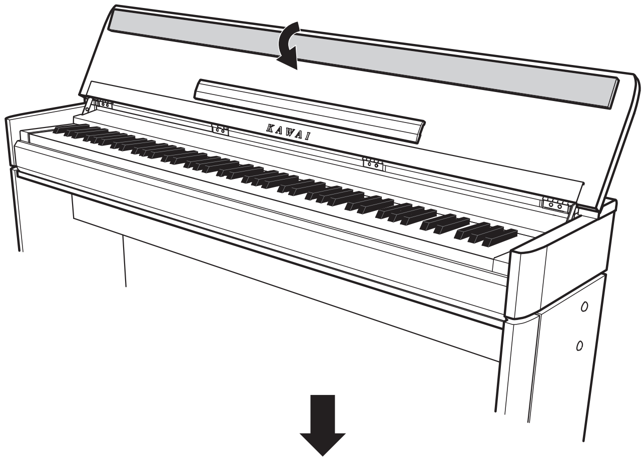
鍵盤蓋の開閉にあたっては、蓋と本体の間に手を入れないでください。
指をはさんでケガをする恐れがあります。特に小さなお子様には十分ご注意ください。

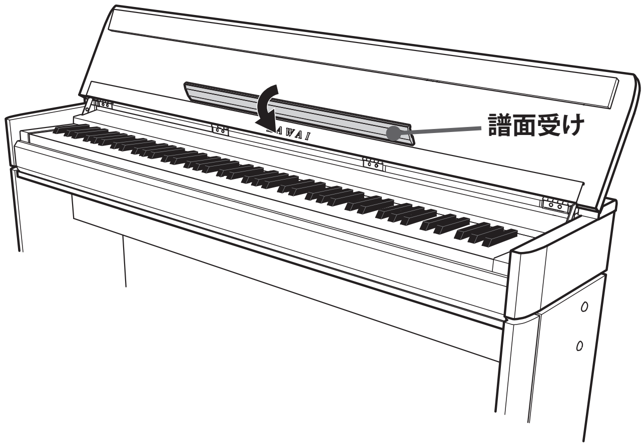
鍵盤蓋を開ける

鍵盤蓋の取っ手を両手で持ち上げ､鍵盤蓋を開けてください。
鍵盤蓋は、約 120 度開いたところで止まります。



譜面を置くときは、鍵盤蓋の取っ手を下向きに折りたたみ、
譜面受けを出してください。





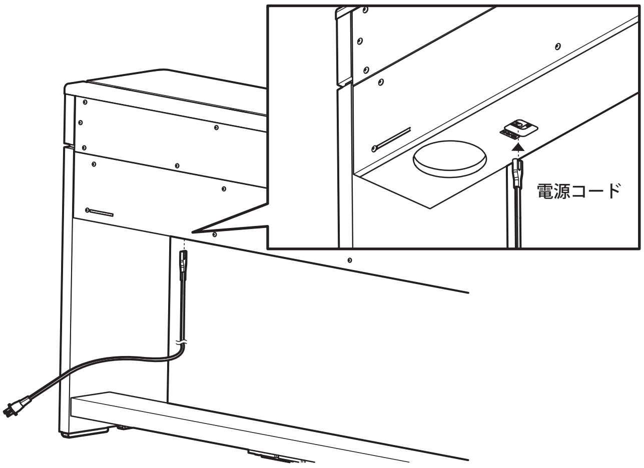
鍵盤蓋を閉める

譜面受けを上向きに折りたたみ、取っ手を元に戻してから、鍵盤蓋を閉めてください。
鍵盤蓋はゆっくり閉まる構造になっています。
無理な力が加わると故障の原因になりますので、鍵盤蓋を無理に押さえつけないでください。

電源を入れる / アジャスターの調整 / 音量を調整する / ヘッドホンを使う

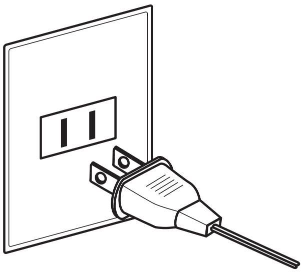
1. 電源コードを本体に接続する

付属の電源コードを、本体底面に差し込みます。



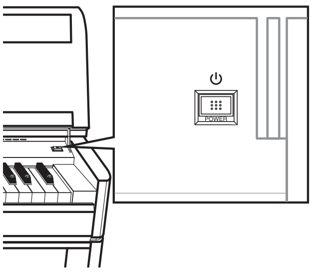
2. 電源コードをコンセントに接続する

電源コードを AC100V のコンセントに差し込みます。



3. 電源を入れる

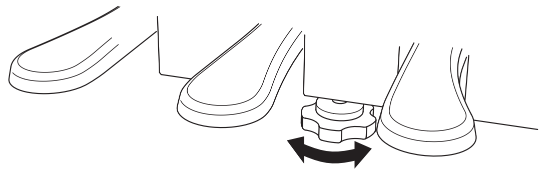
［POWER］スイッチを押して電源を入れます。［POWER］スイッチを押すと［SOUND SELECT］が点灯し、電源ランプも点灯します。



電源を切るときは、もう一度［POWER］スイッチを押します。ボタン・電源ランプが消灯します。

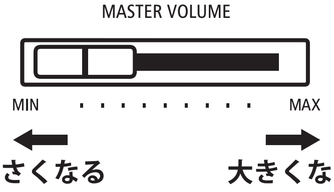
アジャスターについて

ペダル土台にはアジャスターがついています。アジャスターが浮いた状態で使用すると、ペダル土台を破損する恐れがあります。必ずアジャスターが床についた状態でご使用下さい。



音量を調整する

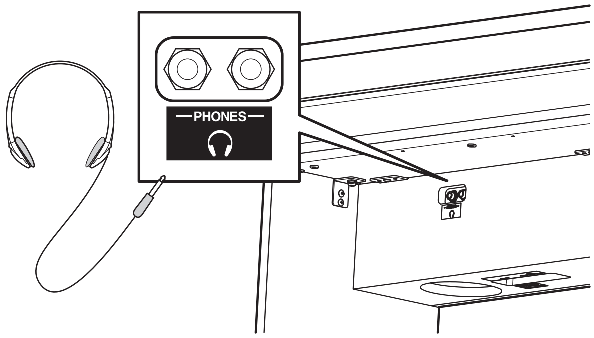
本体右にある［MASTER VOLUME］スライダーで音量を調整します。右側に動かすと音量が大きくなり、左側に動かすと小さくなります。
実際に鍵盤を弾いて音を鳴らしながら、音量を調節してください。



* ボリュームを大きくすると、演奏によっては音が歪む場合があります。その場合、音量を小さくして使用してください。

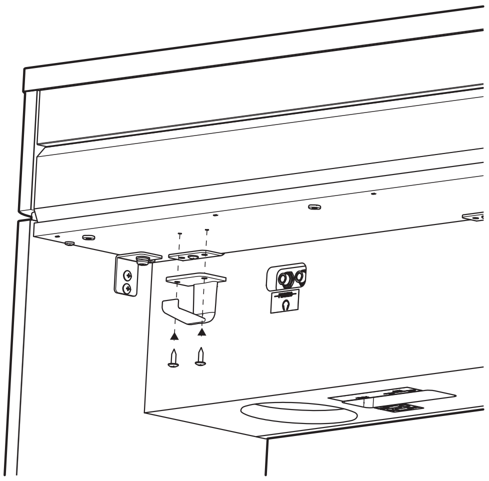
ヘッドホンを使う

ヘッドホンを本体底面のジャックパネルの［PHONES］端子に差し込みます。ヘッドホンを接続すると、本体スピーカーからは音が出なくなります。



ヘッドホンフックを使う

ヘッドホンを使わないときは、ヘッドホンフックにヘッドホンをかけておくことができます。
ヘッドホンフックを使用する場合は図のように取り付けてください。



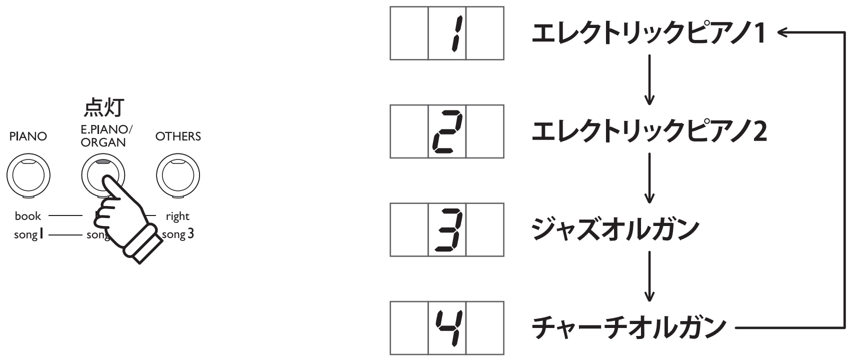
いろいろな音色を楽しむ

本製品には 17 の音色が内蔵されており、これらの音色は 3 つの音色ボタンにそれぞれ割り当てられています。電源 ON 時は、ピアノ 1 が選ばれています。

音色の選び方

音色ボタンを押して、音色を選びます。
ディスプレイには現在選ばれている音色の番号が表示され、この表示はしばらくすると消えます。
例えば、チャーチオルガンを選びたい場合は、ディスプレイに「4」と表示されるまで［E.PIANO/ORGAN］ボタンを繰り返し押してください。

同じ音色ボタンを押した場合、その音色ボタンに割り当てられている音色を順番に選ぶことができます。



また［VALUE］ボタンを押すことでも音色を選ぶことができます。内蔵されているすべての音色（17 音色）を順番に選ぶことができます。

音色名一覧

PIANO	
1	ピアノ 1
2	ピアノ 2
3	ピアノ 3
4	ピアノ 4
5	ピアノ 5
6	ピアノ 6

E.PIANO/ORGAN	
1	エレクトリックピアノ 1
2	エレクトリックピアノ 2
3	ジャズオルガン
4	チャーチオルガン

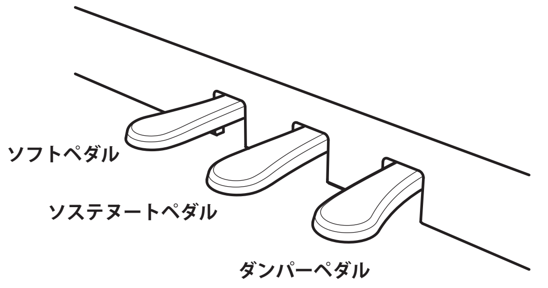
OTHERS	
1	ハープシコード
2	ビブラフォン
3	ストリングス 1
4	ストリングス 2
5	クワイア
6	ファンタジー 1
7	ファンタジー 2

ピアノ音色について

種類	
ピアノ 1	豊かな拡がりのあるグランドピアノの音です。
ピアノ 2	すっきりと澄んだグランドピアノの音です。
ピアノ 3	明るいポップス向きのグランドピアノの音です。
ピアノ 4	柔らかめのグランドピアノの音です。
ピアノ 5	エッジの効いた明るくくっきりしたピアノの音です。
ピアノ 6	ロックなどで使われる硬めのピアノの音です。

ペダルを使う

ペダルにはダンパーペダル / ソステヌートペダル / ソフトペダルがあります。これらはピアノ演奏のときに使われ、次のようなはたらきがあります。



ダンパーペダル（右のペダル）

このペダルを踏んで演奏すると鍵盤から手を離しても音が切れずに長く響かせることができます。
踏み具合により余韻の長さを調節することができます（ハーフペダル対応）。

ソステヌートペダル（中央のペダル）

鍵盤を押した後、指を離す前にこのペダルを踏むと、そのとき押さえていた鍵盤の音のみに余韻を与えます。従って、このペダルを踏んだ後に押した別の鍵盤の音は、通常通り発音します。

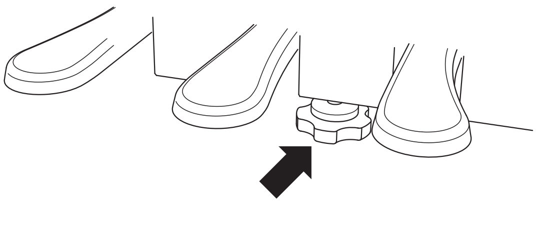
ソフトペダル（左のペダル）

このペダルを踏んで演奏すると、音量がわずかに下がると同時に音の響きがやわらかくなります。
* 音色によっては効果がわかりにくいものもあります。

ジャズオルガンを選択している時は、ロータリー効果のスピード（Slow/Fast）を切り替えることができます。

アジャスターについて

アジャスターが浮いた状態で使用すると、ペダル土台を破損する恐れがあります。必ずアジャスターが床についた状態でご使用下さい。



ペダルのお手入れについて

表面が汚れた場合、乾いた食器洗い用スポンジで拭くと綺麗になります。布ではかえって曇ってしまう場合があります（ゴールドのペダルのみ）。シルバーペダルは、布で拭いても問題ありません。サビ落し用の磨き剤ややすり等は使用しないでください。

グランドフィールペダルシステムについて

本製品のペダルにはグランドフィールペダルシステムが搭載されています。従来のペダルより荷重が重く、3 本のペダルそれぞれがよりグランドピアノに近い踏み心地となっています。

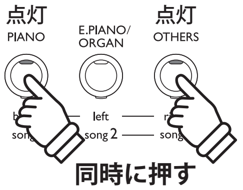
デュアルモード

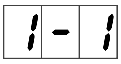
デュアルモードでは 2 つの音色を重ね合わせることができます。2 つの音色が同時に発音されメロディーをデュエットさせたり、同系統の音色を混ぜて厚みのある音を作り出すことで音楽表現の幅が広がります。

デュアルモードに入る

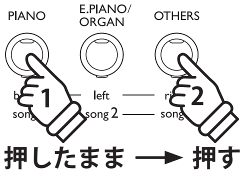
2 つの音色ボタンを同時に押します。
（または 1 つの音色ボタンを押したまま、もう 1 つの音色ボタンを押します。）

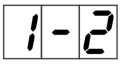
押されたボタンのランプが点灯し、ディスプレイに 2 つのボタンの中で現在選ばれている音色の番号が表示されます。左側のボタンの番号がディスプレイの左に、右側のボタンの番号がディスプレイの右に表示されます。鍵盤を弾くとそれらの音色が重なって鳴ります。



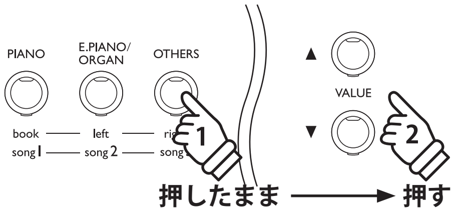


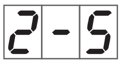
1 つの音色ボタンを押したままで片方の音色ボタンを押していくと、その音色ボタンの番号が切り替わります。





同じ音色ボタンの中の 2 つの音色を重ね合わせる場合には、音色ボタンを押したまま［VALUE］ボタン（▲▼）を押します。例えば、［OTHERS］ボタンの中のビブラフォンとクワイアを重ねる場合には［OTHERS］ボタンでビブラフォン（2 番）を選んだ後、［OTHERS］ボタンを押したまま［VALUE］ボタンを押してクワイア（5 番）を選びます。





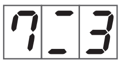
デュアルモードを終了する

デュアルモードを解除する時は、音色ボタンのどれか 1 つを押します。

新たに音色が選ばれると同時に、デュアルモードの設定が解除されます。

デュアルバランスの設定方法

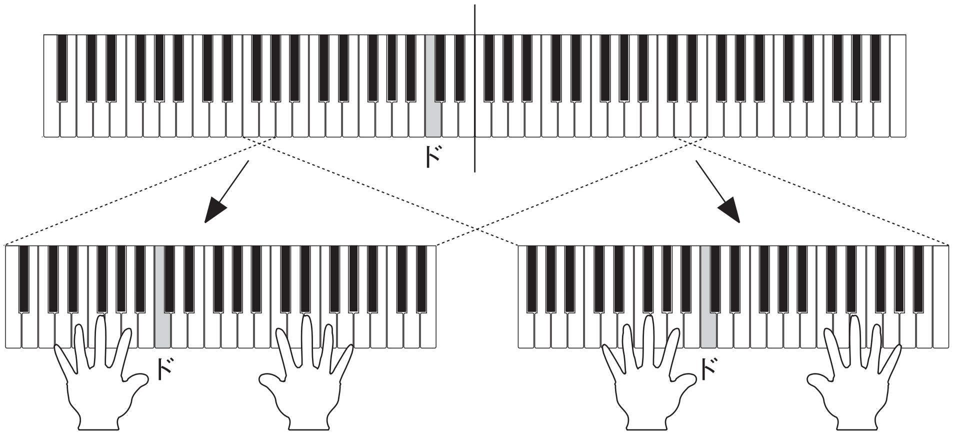
デュアルモードの最中に［VALUE］ボタンを押すことで 2 つの音色の音量バランスを変更することができます。



音色を選択した直後はそれぞれ対等の音量バランスになっています。

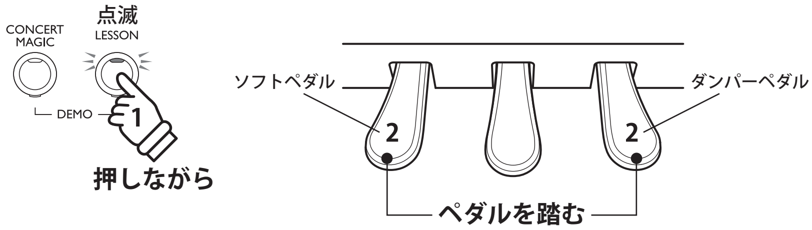
4 ハンズモード（連弾演奏）

4 ハンズモードでは鍵盤を左右 2 つに分け、それぞれ同じ音域で演奏することができます。この時ダンパーペダル（右ペダル）は右側の鍵盤のダンパーペダルとして、ソフトペダル（左ペダル）は左側の鍵盤のダンパーペダルとして動作しますので、まるで 2 台のピアノのように使うことができます。
またソステヌートペダルは右側の鍵盤にのみ有効となります。



▌4 ハンズモードに入る

［LESSON］ボタンを押しながらダンパーペダル（右ペダル）とソフトペダル（左ペダル）を踏みます。［LESSON］ボタンが点滅し、4 ハンズ（連弾演奏）ができるようになります。



▌4 ハンズモードを終了する

4 ハンズ（連弾演奏）を解除する時は、ペダルを踏まずに再度［LESSON］ボタンを押します。
［LESSON］ボタンが消灯し、通常の状態にもどります。

* 通常の方法で、音色を選ぶことができます。両方の音域が同じ音色に設定されます。4 ハンズモード選択中はデュアルモードに設定できません。

リバーブ（残響）

リバーブを加えると、音に残響効果が加わりコンサートホールで演奏しているような深みのある美しい響きが得られます。各音色はあらかじめ最適なリバーブの設定になっています。

リバーブの種類

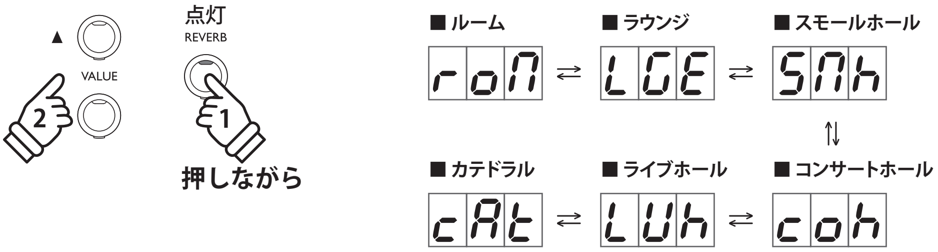
リバーブ名	効果
ルーム	室内での演奏時の残響を再現した効果です。
ラウンジ	ラウンジでの演奏時の残響を再現した効果です。
スモールホール	小ホールでの演奏時の残響を再現した効果です。
コンサートホール	クラシック向け大ホールでの演奏時の残響を再現した効果です。
ライブホール	ライブ向け大ホールでの演奏時の残響を再現した効果です。
カテドラル	大聖堂での演奏時の残響を再現した効果です。

演奏ガイド

リバーブのON/OFFと種類変更

［REVERB］ボタンを押しながら［VALUE］ボタンでリバーブの種類を選びます。

［REVERB］ボタンのランプが点灯します。



［REVERB］ボタンを押している間、ディスプレイに今選ばれているリバーブの種類が表示されます。

［REVERB］ボタンを押して消灯させると、音色のリバーブは解除されます。
再度［REVERB］ボタンを押して点灯させると、前回選択していた種類のリバーブが加えられます。

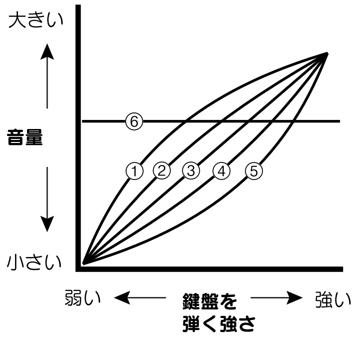
* 各音色にはあらかじめリバーブがセットされています。セットされているリバーブの種類は音色によって異なります。

タッチ（鍵盤を弾く強さによる音量）

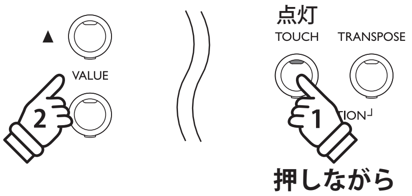
ピアノでは、鍵盤を弾く力をだんだん強くしていくと、音量もだんだん大きくなっていきます。
鍵盤を弾く強さと音量の関係を表したものをタッチカーブと呼びます。
本製品では、6 種類のタッチカーブから 1 つ選ぶことができます。
電源 ON 時は、ノーマルに設定されています。

タッチカーブの種類

種類	効果
① ライト 2	弱いタッチで弾いても大きな音がでます。
② ライト 1	小さなお子様や、オルガンプレーヤ向きのタッチカーブです。
③ ノーマル	アコースティックピアノと同程度のタッチで音量が変化します。
④ ヘビー 1	強いタッチで弾かないと大きな音が出ません。
⑤ ヘビー 2	指の力の強い人向きのタッチカーブです。
⑥ オフ	タッチの強弱に関わらず一定の音量で発音します。



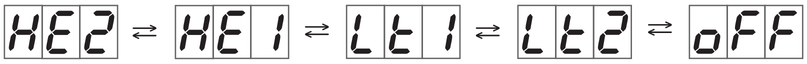
［TOUCH］ボタンを押しながら［VALUE］ボタンを押してタッチの種類を選びます。



［TOUCH］ボタンのランプが点灯し、ボタンを押している間ディスプレイに現在選ばれているタッチカーブが表示されます。
［VALUE］ボタン（▲▼）を押してタッチカーブを選択します。

ここで選択したタッチカーブは、［TOUCH］ボタンのランプが点灯時に有効になります。
［TOUCH］ボタンのランプが消灯時は、ノーマルに設定されます。

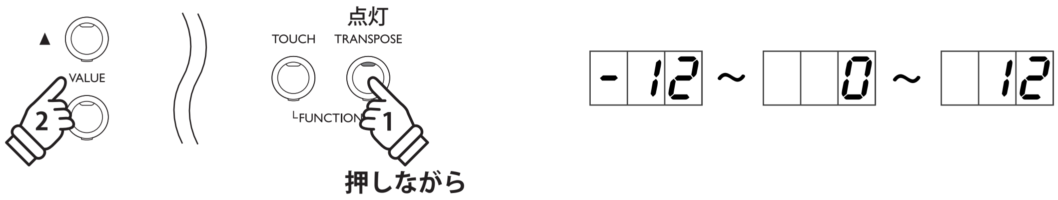
■ ヘビー2　■ ヘビー1　■ ライト1　■ ライト2　■ オフ



トランスポーズ（鍵盤の調）

トランスポーズとは半音単位で調を変えることです。キー（調）の異なる楽器とのアンサンブル演奏や歌の伴奏をするときに、弾く鍵盤を変えずに簡単に移調できます。
本製品ではー 12 ～＋ 12（全 2 オクターブ）の間で設定できます。数字は半音単位で、1 オクターブは 12 半音です。
電源 ON 時は、「0」に設定されています。

［TRANSPOSE］ボタンを押しながら［VALUE］ボタンで移調させます。

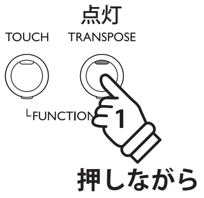


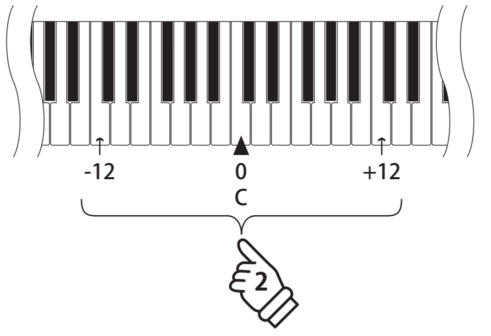
［TRANSPOSE］ボタンのランプが点灯し、ボタンを押している間、現在セットされているトランスポーズの値がディスプレイに表示されます。

電源 ON 時は［TRANSPOSE］ボタンのランプは消灯しており、押しても点灯しません。

［VALUE ▲］ボタンを押す度に半音ずつ調が上がり、［VALUE ▼］ボタンで半音づつ調が下がります。

［TRANSPOSE］ボタンを押しながら鍵盤を押しても移調できます。





鍵盤中央のド（C）が 0 です。
ディスプレイに値が表示されます。

［TRANSPOSE］ボタンのランプは、ハ長調（C）以外のキーにセットされている時に押すと点灯します。

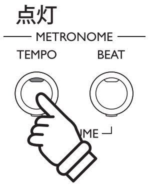
例えば、ここで「-3」にセットしておき、［TRANSPOSE］ボタンのランプを点灯させれば、半音 3 つ分音が下がり［TRANSPOSE］ボタンのランプを消灯させれば、ワンタッチでハ長調（C）のキーに戻ります。

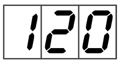
メトロノーム

メトロノームを使って練習をしましょう。

メトロノームの発音とテンポ設定

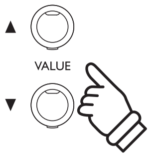
［TEMPO］ボタンを押します。

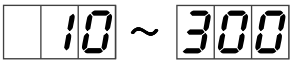




［TEMPO］ボタンが点灯し、メトロノームが発音します。
ディスプレイに現在のテンポの値が表示されます。

［VALUE］ボタンを押してテンポを選びます。





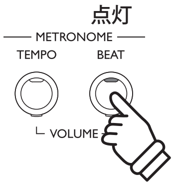
ディスプレイにテンポが表示されているときは、テンポの値を♩=10 ～ 300 の範囲で設定できます。
（3/8、6/8 拍子のときは、♪=20 ～ 600）

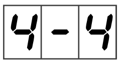
［TEMPO］ボタンを押すとメトロノームが止まります。

［TEMPO］ボタンのランプは消灯します。

メトロノームの拍子設定

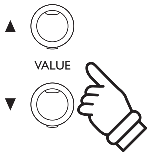
［BEAT］ボタンを押します。



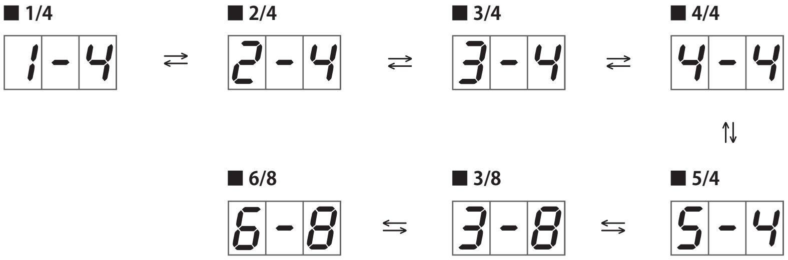


［BEAT］ボタンが点灯し、メトロノームが発音します。
ディスプレイに現在の拍子が表示されます。

［VALUE］ボタンを押して拍子を選びます。



ディスプレイに拍子が表示されているときは、1/4, 2/4, 3/4, 4/4, 5/4, 3/8, 6/8 拍子より選ぶことができます。



［BEAT］ボタンを押すとメトロノームが止まります。

［BEAT］ボタンのランプは消灯します。

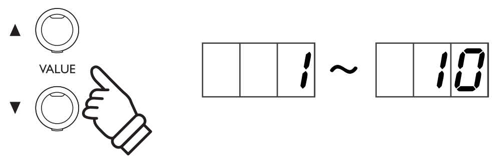
メトロノームの音量設定

［TEMPO］ボタンと［BEAT］ボタンを同時に押します。

2 つのボタンが点灯し、メトロノームが発音します。
ディスプレイに現在の音量の値が表示されます。

［VALUE］ボタンを押して音量を選びます。

ディスプレイに音量が表示されている間、1 ～ 10 の範囲で設定できます。



［TEMPO］ボタンと［BEAT］ボタンを同時に押すとメトロノームが止まります。

［TEMPO］ボタン、［BEAT］ボタンのランプは消灯します。

パネルロック

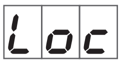
パネルロックを使うと、演奏中の誤操作を防止する為に鍵盤とペダル以外のボタンの機能を一時的にロックすることができます。

パネルロックの設定は自動的に本体に保存されるので、一度電源を切っても設定は解除されません。

パネルロックを有効にする

［CONCERT MAGIC］ボタンと［TRANSPOSE］ボタンを同時に押して、パネルロックを有効にします。

ディスプレイに右のような表示があらわれ、鍵盤とペダル以外のボタン操作ができなくなります。



パネルロックを解除する

［CONCERT MAGIC］ボタンと［TRANSPOSE］ボタンを、再度同時に押します。

ディスプレイの表示が消え、パネルロックが解除されます。

デモ曲を聴く

本製品は付属の楽譜集「クラシカル ピアノ コレクション」に収められているピアノ曲 29 曲を内蔵しています。
さらに音色ごとにその音色の特徴を生かしたデモ曲も内蔵しています。

クラシカルピアノコレクション

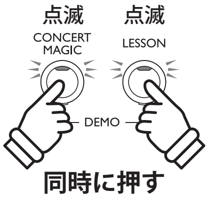
曲番号	曲　名	作曲者名
C01	タンブラン	ラモー
C02	調子のよいかじ屋	ヘンデル
C03	メヌエット　ト長調（BWV.Anh.114）	バッハ
C04	メヌエット　ト短調（BWV.Anh.115）	
C05	メヌエット　ト長調（BWV.Anh.116）	
C06	かっこう	ダカン
C07	ガヴォット	ゴセック
C08	メヌエット	ボッケリーニ
C09	主題と変奏「ピアノソナタ第 11 番 K.331」より第 1 楽章	モーツァルト
C10	トルコ行進曲「ピアノソナタ第 11 番 K.331」より第 3 楽章	
C11	メヌエット	
C12	ピアノ・ソナタ「月光」より第 1 楽章	ベートーベン
C13	ピアノ・ソナタ「悲愴」より第 2 楽章	
C14	エリーゼのために	

曲番号	曲　名	作曲者名
C15	ロンド・ファヴォリ	フンメル
C16	即興曲　作品 90 の 4	シューベルト
C17	楽興の時　作品 94 の 3	
C18	間奏曲	
C19	即興曲　作品 142 の 3	
C20	歌の翼に	メンデルスゾーン
C21	春の歌	
C22	ロンド・カプリッチョーソ	
C23	別れの曲	ショパン
C24	雨だれの前奏曲	
C25	子犬のワルツ	
C26	ノクターン第 2 番	
C27	幻想即興曲	
C28	軍隊ポロネーズ	
C29	英雄ポロネーズ	

音色デモ

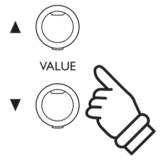
音色名	曲　名	作曲者名
ピアノ 1	ハンガリー狂詩曲　第 6 番	リスト
ピアノ 2	子犬のワルツ	ショパン
ピアノ 3	オリジナル	カワイ
ピアノ 4	ソナタ第 30 番	ベートーベン
ピアノ 5	オリジナル	カワイ
ピアノ 6	オリジナル	
エレクトリックピアノ 1	オリジナル	
エレクトリックピアノ 2	オリジナル	
ジャズオルガン	オリジナル	
チャーチオルガン	コラール前奏曲 “ 目覚めよ、と呼ぶ声あり ”	バッハ
ハープシコード	フランス組曲第 6 番	
ビブラフォン	オリジナル	カワイ
ストリングス 1	四季 “ 春 ”	ヴィヴァルディ
ストリングス 2	オリジナル	カワイ
クワイア	ロンドンデリーの歌	アイルランド民謡
ファンタジー 1	オリジナル	カワイ
ファンタジー 2	オリジナル	

［CONCERT MAGIC］ボタンと［LESSON］ボタンを同時に押します。



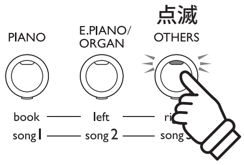
［CONCERT MAGIC］ボタンと［LESSON］ボタンのランプが点滅し、クラシカルピアノコレクションの 29 曲がランダムに演奏されます。
［CONCERT MAGIC］ボタンか［LESSON］ボタンもしくは［PLAY/STOP］ボタンのいずれかを押すと演奏が止まります。

［VALUE］ボタンを押して曲を変更することができます。



変更した場合ランダムが解除されて曲順にしたがって演奏されるようになります。

デモモードに入った後、音色ボタンを押すと音色デモを選ぶことができます。



* 音色ボタンを繰り返し押すことによって、音色デモリストのデモ曲を選ぶことができます。
［VALUE］ボタンで音色デモ曲を選択することはできません。
音色デモ曲再生時にはディスプレイに音色番号が表示されます。

［CONCERT MAGIC］ボタンか［LESSON］ボタンもしくは［PLAY/STOP］ボタンを押すと演奏が止まります。

［CONCERT MAGIC］ボタンと［LESSON］ボタンのランプが消灯し通常の状態にもどります。

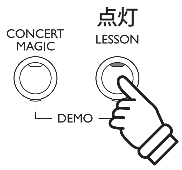
レッスン機能を楽しむ

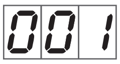
本製品は上達に役立つ練習曲を内蔵しています。
バイエル、ブルクミュラーなどの練習曲の見本を聴きながら右手、左手を別々に練習することができます。
内蔵している見本曲集は下記です。

1. バイエルピアノ教則本　全曲（ただし予備練習、付録を除く）（カワイ出版）
2. ブルクミュラー 25 の練習曲全曲（カワイ出版）
3. チェルニー 30 番練習曲全曲（カワイ出版）

1 練習したい曲を選ぶ

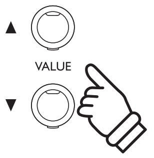
［LESSON］ボタンを押します。

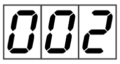




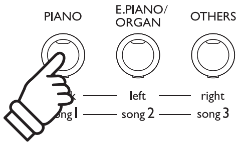
［LESSON］ボタンのランプが点灯し、レッスンモードに入ります。
ディスプレイには現在選ばれている曲番号が表示されます。
電源 ON 時はバイエルの曲集の 1 番が選ばれます。

［VALUE］ボタンで曲の番号を選びます。



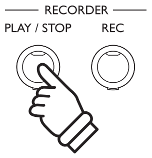


バイエルの 1 番と 2 番はバリエーションがそれぞれ 12 曲と 8 曲づつありますので曲の番号は 001, 1-1, …1-12、002、2-1、… 2-8、003 , 004 、… 106 の順になります。
また他の曲集についてはブルクミュラー（b 01 • • b 25）、チェルニー（c 01 • • c 30）となります。曲集を変更するには［book］ボタンを使用します。［book］ボタンを押すたびに曲集が変わります。



2 練習曲を聴く

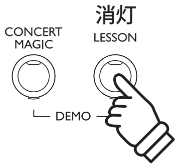
［PLAY/STOP］ボタンを押します。



1 小節のメトロノームが鳴った後、選んだ見本曲が再生されます。
途中で止めたい場合は［PLAY/STOP］ボタンを押します。（一時停止状態になり［PLAY/STOP］ボタンは点滅します）もう一度［PLAY/STOP］を押すとそこから再生されます。
曲再生を完全に停止させたい場合は、［PLAY/STOP］ボタンを長押しするか、曲を選びなおします。
完全に停止すると［PLAY/STOP］ボタンのランプが消灯します。

レッスン機能の終り方

［LESSON］ボタンを押します。

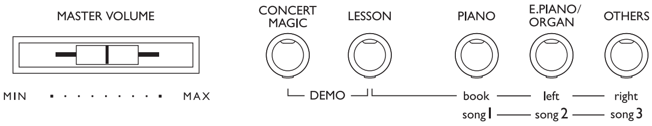


［LESSON］ボタンのランプが消灯し、通常の状態に戻ります。

3 片手で練習する

見本曲の片方のパートだけを再生することを「マイナスワン再生」といい、片方のパートを再生させながらもう片方のパートを練習することを「マイナスワン練習」といいます。

見本曲を選んだ後、パートを選びます。



点灯しているパートが再生されます。曲を選んだ後は両方のパートボタンが点灯しています。

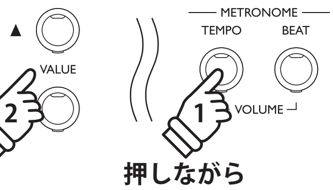
■見本曲の左手パート（left）を再生しながら右手パート（right）を練習したい場合
曲を選んだ後[right]ボタンを押します。right のランプが消灯し、left のランプのみが点灯して左手パートのみが再生されます。

■見本曲の右手パート（right）を再生しながら左手パート（left）を練習したい場合
曲を選んだ後 [left] ボタンを押します。left のランプが消灯し、right のランプのみが点灯して右手パートのみが再生されます。

■自分のパートの見本を再生しながら合わせて演奏した場合、弾く音程やタイミングによっては音質が変化することがありますが、これは故障ではありません。気になる場合は、消して下さい。

練習曲のテンポを変更する

［TEMPO］ボタンを押しながら［VALUE］ボタンで値を設定します。



元のテンポに戻すには［TEMPO］ボタンを押しながら［VALUE］ボタン（▲、▼）を同時に押すか、曲を選びなおします。

コンサートマジックを楽しむ

1 コンサートマジックとは？

コンサートマジックとは、指一本で本格的なピアノ演奏を可能にする画期的な機能です。本製品にはコンサートマジック曲を 40 曲内蔵しており、下記の 2 つのモードで演奏を楽しむことができます。曲名についてはコンサートマジック曲一覧（P.25）をご参照ください。

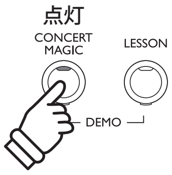
モード 1	メロディーに関係なく、等間隔に鍵盤をたたいて曲を進めます。たたく間隔で曲の速さが決まります。鍵盤をたたく強さによって曲の強弱をつけることもできます。電源 ON 時のモードです。
モード 2	曲の音符通りに鍵盤をたたいて曲を進めます。モード 1 より難しいですが、1 音 1 音にタイミングの変化をつけることができます。

2 コンサートマジックを演奏しよう

ここでは、内蔵のコンサートマジック曲の選択と演奏方法を説明します。

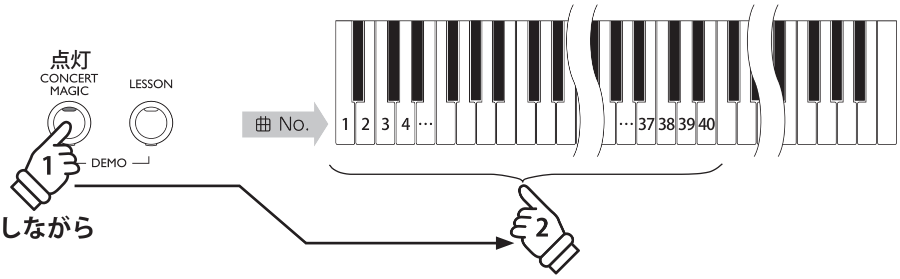
1. コンサートマジックモードに入る

［CONCERT MAGIC］ボタンを押すと、ランプが点灯しコンサートマジックモードに入ります。



2. 曲を選択する

［CONCERT MAGIC］ボタンを押しながら曲が割り当てられている鍵盤（白鍵）を押します。コンサートマジック曲は、白鍵の最低音から 40 の白鍵に 1 曲ずつ割り当てられており、鍵盤で曲を選択します。

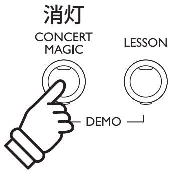


3. コンサートマジックを楽しむ

鍵盤を弾いてみましょう。どの鍵盤でもタクトのように拍子をとるようにたたけば演奏を進めることができます。鍵盤を弾くタッチによって強弱をつけることもできます。テンポの変化をつけることもできます（モード 1）。
また、少し難しいですが、音符のタイミング通りに鍵盤をたたいて進めるモード 2 に切り換えることもできます。（P.25 参照）
通常の音色変更の場合と同様の操作で、音色を変更することができます。

4. コンサートマジックモードを終了する

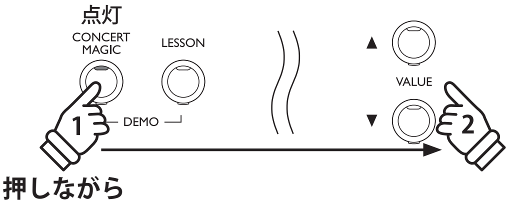
［CONCERT MAGIC］ボタン押すとコンサートマジックモードを終了します。

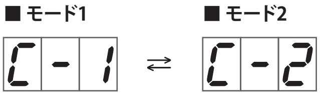


5. コンサートマジックの演奏モードを切り換える

［CONCERT MAGIC］ボタンを押しながら［VALUE］ボタンを押して演奏モードの種類を選びます。
［CONCERT MAGIC］ボタンのランプが点灯し、ボタンを押している間ディスプレイに現在選ばれている演奏モードが表示されます。

電源 ON 時は、「モード 1」が選ばれています。





コンサートマジック曲一覧

	曲名	作曲者名
	子供の曲（10 曲）	
1	きらきら星	フランス民謡
2	ロンドン橋	イギリス民謡
3	ふるさと	岡野貞一
4	山の音楽家	ドイツ民謡
5	もみじ	岡野貞一
6	ゆき	文部省唱歌
7	10 人のインディアン	アメリカ民謡
8	さくらさくら	日本古謡
9	わらの中の七面鳥	アメリカ民謡
10	森のくまさん	アメリカ民謡
	アメリカのクラシック音楽（7 曲）	
11	聖者の行進	アメリカ民謡
12	おじいさんの古時計	アメリカ民謡
13	リパブリック賛歌	アメリカ民謡
14	ロンドンデリーの歌	アイルランド民謡
15	ケンタッキーの我が家	フォスター
16	草競馬	フォスター
17	線路は続くよどこまでも	アメリカ民謡

	曲名	作曲者名
	クラシック（15 曲）	
18	ウィリアムテル序曲	ロッシーニ
19	天国と地獄	オッフェンバック
20	エンターティナー	ジョプリン
21	花のワルツ	チャイコフスキー
22	スケーターズ ワルツ	ワルトトイフェル
23	闘牛士の歌	ビゼー
24	ブラームスの子守歌	ブラームス
25	アメリカン パトロール	ミーチャム
26	眠りの森の美女	チャイコフスキー
27	ガボット	ゴセック
28	軍隊行進曲	シューベルト
29	双頭のわしの旗のもとに	ワグナー
30	エリーゼのために	ベートーベン
31	結婚行進曲	メンデルスゾーン
32	婚礼の合唱	ワグナー
	クリスマスの曲（4 曲）	
33	おめでとうクリスマス	イギリス民謡
34	ジングルベル	ピアポント
35	もろ人こぞりて	讃美歌
36	きよしこの夜	グルーバー
	世界の民謡（4 曲）	
37	フニクリフニクラ	デンツァ
38	こぎつね	ドイツ民謡
39	アニーローリー	スコットランド民謡
40	サンタルチア	ナポリ民謡

3 コンサートマジック曲を聴いてみよう

コンサートマジック曲は、普通のデモ曲として再生することができます。どんな曲かまず聴いてみたいときに便利な機能です。

通常再生

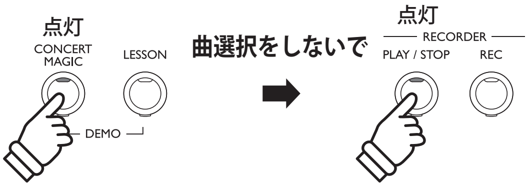
［CONCERT MAGIC］ボタンを押しながら鍵盤を押して選曲した後、［PLAY/STOP］ボタンを押します。

選択されている曲が繰り返し再生されます。
演奏を止めるにはもう一度［PLAY/STOP］ボタンを押すか、［CONCERT MAGIC］ボタンを押します。

チェイン再生

コンサートマジックモードに入り鍵盤で曲選択をせずに、［PLAY/STOP］ボタンを押します。

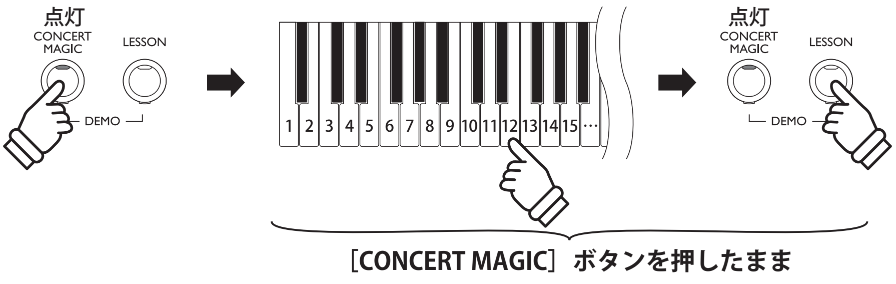
1 曲目から 40 曲目まで順番に繰り返し再生します。



グループ再生

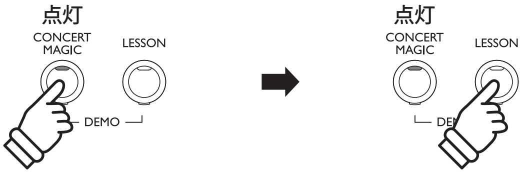
［CONCERT MAGIC］ボタンを押しながら鍵盤を押して選曲し、そのまま（［CONCERT MAGIC］ボタンを離さないで）［LESSON］ボタンを押します。

選択した曲が含まれるグループの曲を順番に繰り返し再生します。
例えば、No.11 の「聖者の行進」を選ぶと、この曲から演奏が開始され、No.11 ～ No.17 のグループ「アメリカのクラシック音楽」を繰り返し再生します。



ランダム再生

［CONCERT MAGIC］ボタンを押した後、手を離し［LESSON］ボタンを押します。その後ストップするまでコンサートマジック内蔵曲がランダムに演奏されます。

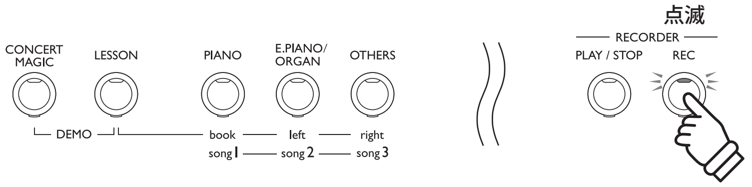


* ［TEMPO］ボタンを押しながら［VALUE］ボタンを押してテンポを調節できます。

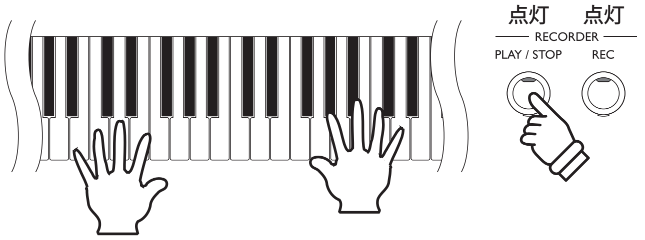
演奏を録音する

本製品では、自分の演奏を録音・再生することができます。
一度の演奏を 1 曲（ソング）とすると 3 曲（ソング）まで、録音することができます。

［REC］ボタンを押します。［REC］ボタンが点滅してスタンバイ状態になります。
（キャンセルする場合は、もう一度［REC］ボタンを押します。）



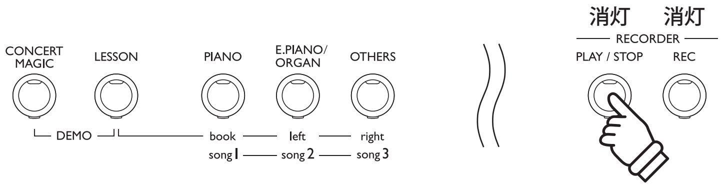
鍵盤を弾いて録音をスタートします。
（[PLAY/STOP] ボタンを押しても録音を開始できます。）



鍵盤を弾くと自動的に録音がスタートします。
このとき、［PLAY/STOP］ボタンと［REC］ボタンのランプが点灯します。

録音中の音色変更も記憶されます。

演奏が終わったら [PLAY/STOP］ボタンを押して録音を終了します。

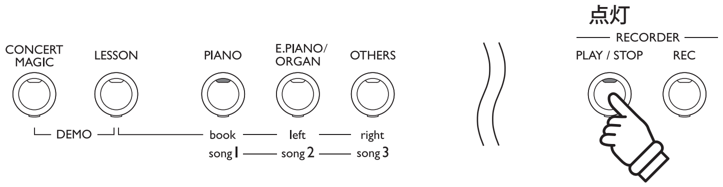


［PLAY/STOP］ボタンと［REC］ボタンのランプが消え停止します。
終了処理の間は操作ができません。

録音した演奏を聴く

録音した曲を再生します。

［PLAY/STOP］ボタンを押します。



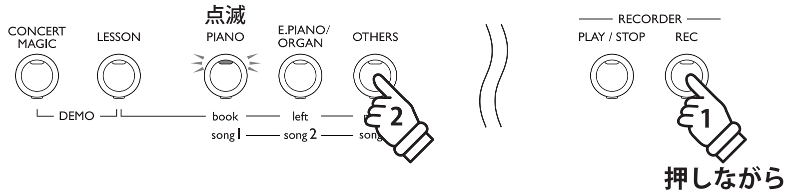
［PLAY/STOP］ボタンのランプが点灯して再生が開始されます。

曲を選択する

曲（ソング）は 1-3 番まであり、電源 ON 時は 1 番目の曲が選ばれています。
録音のスタンバイに入る時と、再生を始めるときに曲を選ぶことができます。
選択された曲の番号は電源を切るまで保持されます。

録音時に曲を選ぶには

［REC］ボタンを押し続けます。現在選ばれているソングボタンのランプが点滅します。
［REC］ボタンをそのまま押しながら、選びたい曲の番号のソングボタンを押します。

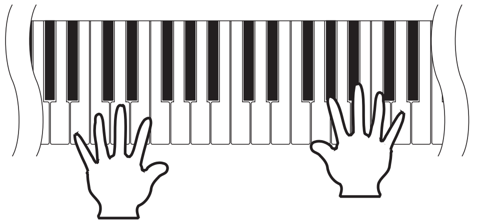


選んだ曲の番号のランプが点滅します。
このときランプが点灯している曲は録音済みを表し、消灯している場合は何も録音されてないことを表します。

曲を選び終わったら［REC］ボタンを離します。

［REC］ボタンが点滅してスタンバイ状態になります。

鍵盤を弾いて録音をスタートします。
（［PLAY/STOP］ボタンを押しても録音を開始できます。）

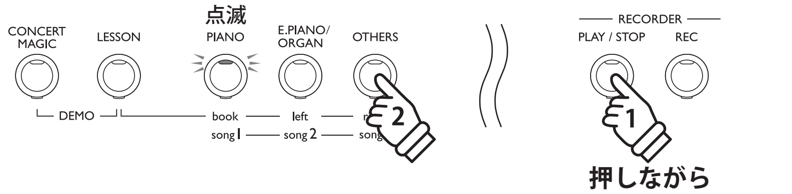


鍵盤を弾くと自動的に録音がスタートします。
このとき［PLAY/STOP］ボタンのランプが点灯します。

演奏が終わったら［PLAY/STOP］ボタンを押して録音を終了します。

再生時に曲を選ぶには

［PLAY/STOP］ボタンを押し続けます。現在選ばれているソングのランプが点滅します。
そのまま［PLAY/STOP］ボタンを押しながら、選びたい曲の番号ボタンを押します。



選んだ曲の番号のランプが点滅します。
このときランプが点灯している曲は録音済みを表し、消灯している場合は何も録音されてないことを表します。

［PLAY/STOP］ボタンを離します。

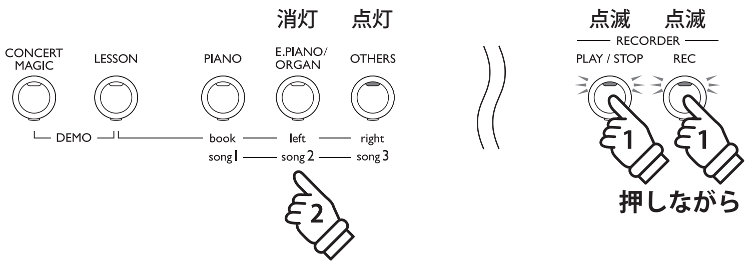
［PLAY/STOP］ボタンのランプが点灯して再生が開始されます。
選んだソングに何も録音されてなければ PLYA/STOP ランプは点灯しません。

録音した演奏を消去する

録音に失敗した場合は、消去しなくても録音し直せば自動的に消去されて上書きされますが、単に消去することもできます。1 曲ずつ消去する方法と、3 曲まとめて消去する方法があります。

1 曲消去

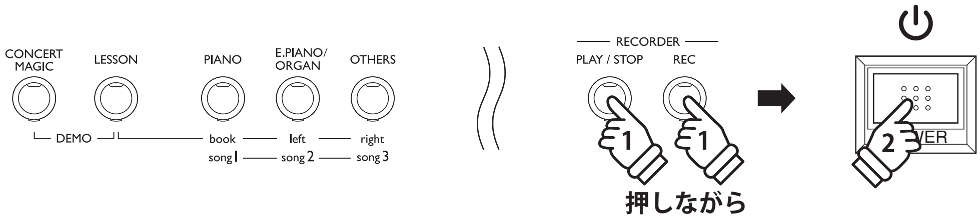
［PLAY/STOP］ボタンと［REC］ボタンを同時に押しながら消去するソングのボタンを選択します。



［PLAY/STOP］ボタンと［REC］ボタンを同時に押すと、録音されているソングのランプが点灯します。
そのまま消去するソングのボタンを押すと、ランプが消えてそのソングが消去されます。

全曲消去

［PLAY/STOP］ボタンと［REC］ボタンを押したまま電源を入れ直します。
3 曲とも消去された状態で立ち上がります。



演奏を録音再生する

設定モード

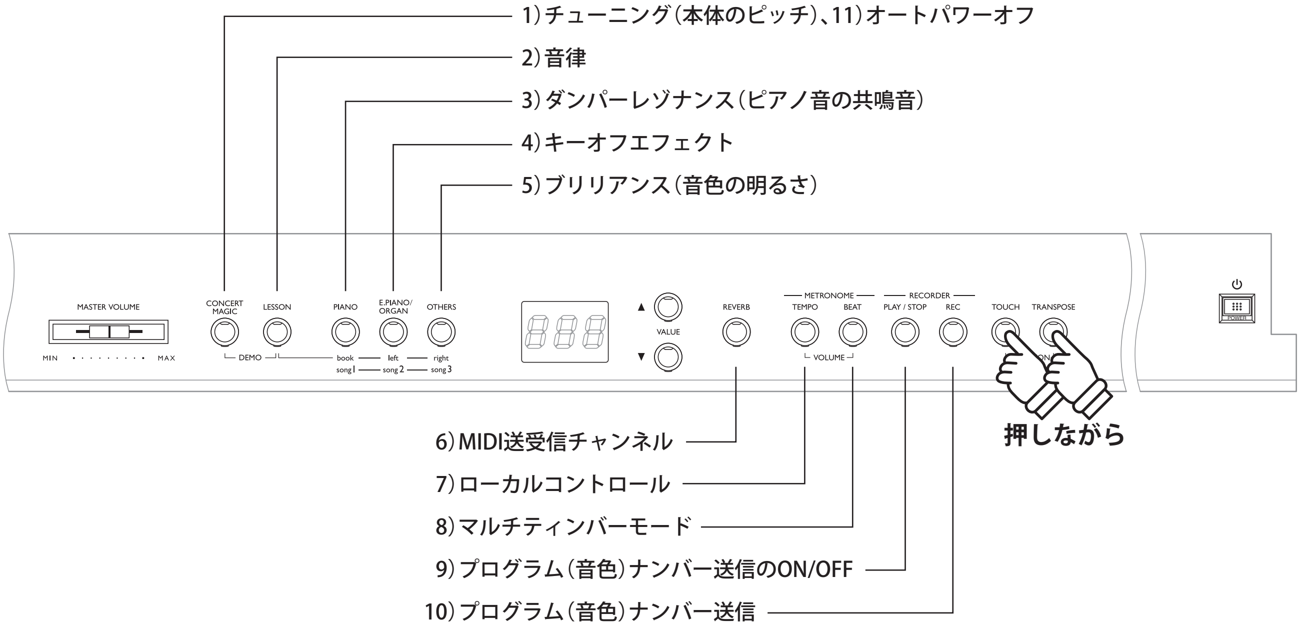
本製品では、ピアノの演奏を楽しむために、いろいろな状態を設定することができます。
これを " 設定モード " といいます。

設定モードのメニュー

1）チューニング（本体のピッチ）	6）MIDI 送受信チャンネル
2）音律	7）ローカルコントロール
3）ダンパーレゾナンス（ピアノ音の共鳴音）	8）マルチティンバーモード
4）キーオフエフェクト	9）プログラム（音色）ナンバー送信の ON/OFF
5）ブリリアンス（音色の明るさ）	10）プログラム（音色）ナンバー送信
	11）オートパワーオフ

設定モードへの入り方

［TOUCH］ボタンと［TRANSPOSE］ボタンを同時に押しながら、各メニューが割り当てられたボタンを押します。

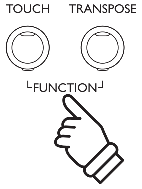


押された 3 つのボタンが点滅します。

設定モードの終り方

［TOUCH］ボタンまたは［TRANSPOSE］ボタンを押します。

ランプの点滅が消え設定モードを終了し、通常の状態に戻ります。

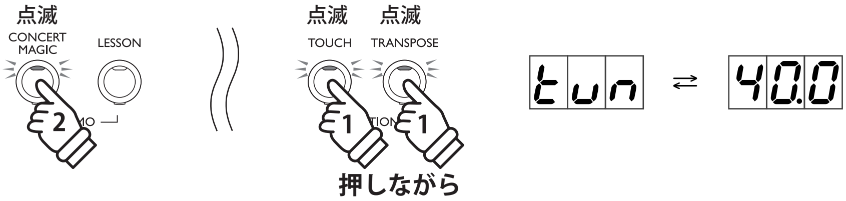


様々な設定をする

1 チューニング（本体のピッチ）

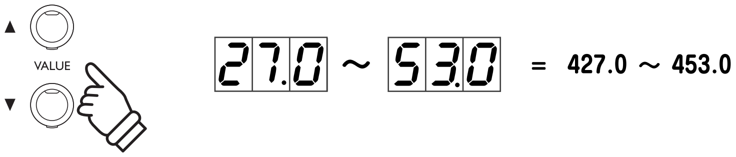
チューニングとは他の楽器とピッチ（音程）を合わせることです。合奏のときや CD の再生に合わせて演奏するときなど、音程を合わせたいときに使用します。
電源 ON 時は A = 440.0Hz に設定されています。

［TOUCH］ボタンと［TRANSPOSE］ボタンを同時に押しながら、［CONCERT MAGIC］ボタンを押します。



［TOUCH］、［TRANSPOSE］、［CONCERT MAGIC］ボタンが点滅し、ディスプレイにメニュー名と現在の値が交互に表示されます。

［VALUE］ボタンで値を設定します。



427.0 ～ 453.0（Hz）の範囲を 0.5Hz の単位で設定ができます。
表示は、百の位が省略されて十の位以下が示されています。

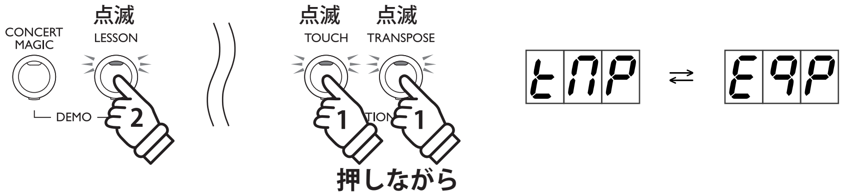
* チューニングは “ 設定モード ” に入った時に選ばれていた音色でおこないます。
別の音色でチューニングしたい場合は、一度 “ 設定モード ” から抜けて音色を選び直してから行ってください。

2 音律

ピアノの調律法として、最も一般的な平均律だけでなく、ルネッサンス、バロック等の時代に用いられた古典音律を内蔵しています。
本製品に内蔵されている音律の設定は、以下の通りです。

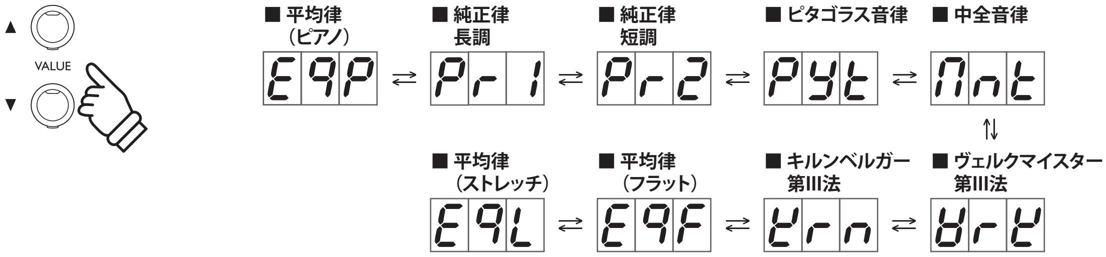
音律	説明
平均律（ピアノ） （Equal P.only）	ピアノの音色が選択されている場合は、ピアノの調律曲線に従います。それ以外の音色が選択されていれば、平均律（フラット）に従います。
純正律＜長調＞ （Pure major）	3 度と 5 度のうなりをなくした調律法で、合唱音楽では、現在でも随所にこの音律に基づいた演奏が行われています。
純正律＜短調＞ （Pure minor）	純正律は、長調と短調で異なります。 長調と同様の効果を短調でも得られます。
ピタゴラス音律 （Pythagorean）	5 度のうなりをなくした調律法で、和音よりもメロディーを演奏すると非常に美しいのが特長です。
中全音律 （Meantone）	3 度のうなりをなくした調律法で純正律の特長の 5 度が著しく不協和であることを改良したもので、平均律よりも和音が美しく響きます。
ヴェルクマイスター第 III 法 （Werkmeister） キルンベルガー第 III 法 （Kirnberger）	調号の少ない調は、和音の美しい中全音律に近く、調号が増えるに従って、緊張感が高く、メロディーが美しいピタゴラス音律に近づけていくもので、古典音楽の作曲家の意図した " 調性の性格 " を反映することのできる調律法です。
平均律（フラット） （Equal Flat）	ピアノの調律曲線を使わない平坦な平均律です。どのように移調しても和音の響きが変らないという特長があります。
平均律（ストレッチ） （Equal Stretch）	ピアノの調律曲線を使った平均律です。ピアノの調律法として、最もポピュラーなものです。

［TOUCH］ボタンと［TRANSPOSE］ボタンを同時に押しながら、［LESSON］ボタンを押します。



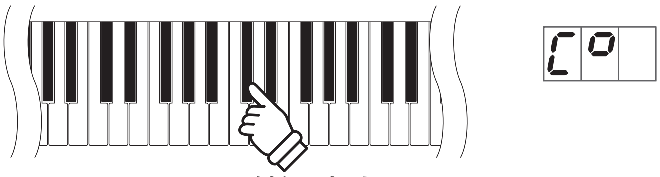
［TOUCH］、［TRANSPOSE］、［LESSON］ボタンが点滅し、ディスプレイにメニュー名と現在の状態が交互に表示されます。

［VALUE］ボタンで音律を設定します。



電源 ON 時は、平均律（ピアノ）に設定されています。
この場合、ピアノ音色を選択した時、自動的に平均律ストレッチ（ピアノの調律曲線を使った平均律）に設定され、ピアノ以外の音色の時には、自動的に平均律フラットに設定されます。

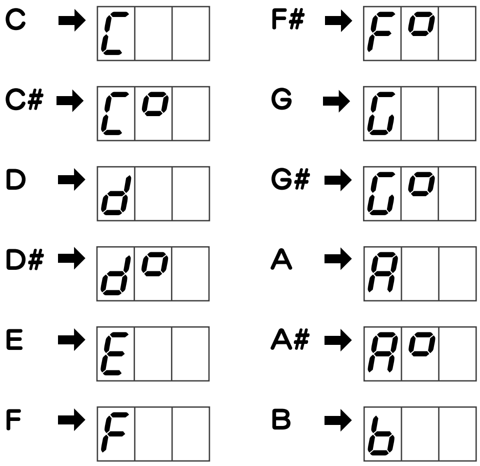
鍵盤を押して、音律の調（キー）を設定します。



C# の鍵盤を押す

設定は 88 鍵全部でできます。
鍵盤を押したら、ディスプレイに調が表示されます。

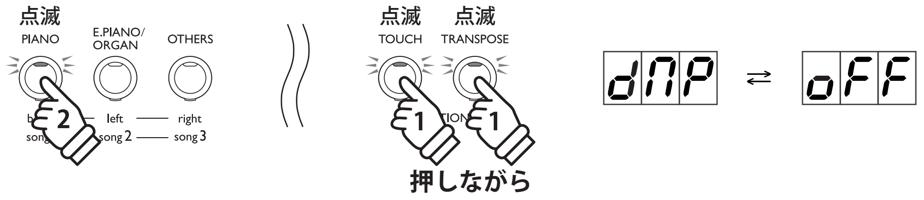
＊平均律を選択した場合は、調の設定をしても変化はありません。



3 ダンパーレゾナンス（ピアノ音の共鳴音）

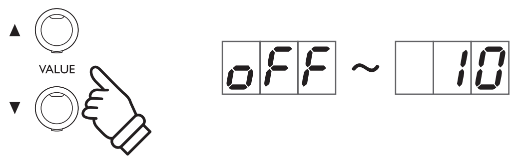
ピアノ音色でダンパーペダルを踏んだ時の共鳴効果の深さを変えることができます。（ピアノ 1 ～ 6 のみ）
電源 ON 時は、5 に設定されています。

［TOUCH］ボタンと［TRANSPOSE］ボタンを同時に押しながら、［PIANO］ボタンを押します。



［TOUCH］、［TRANSPOSE］、［PIANO］ボタンが点滅し、ディスプレイにメニュー名と現在の状態が交互に表示されます。

［VALUE］ボタンで値を設定します。

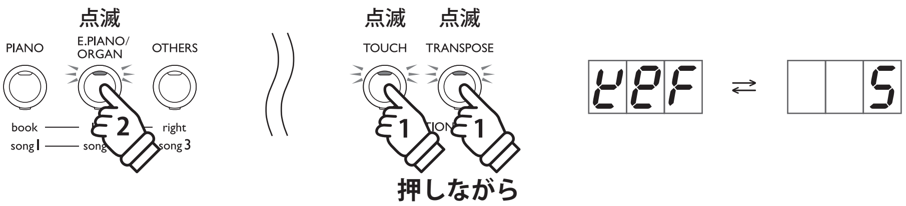


ダンパーレゾナンスの設定できる範囲は「OFF」と「1 ～ 10」です。
OFF にするとダンパーペダルを踏んでも共鳴音はありません。
値を大きくすると共鳴音の音量が大きくなります。

4 キーオフエフェクト

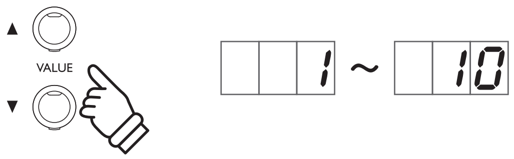
キーオフエフェクトは、特に低音でピアノの鍵盤を強く弾いてから離したときに、音が止まる直前にダンパーが弦に触れる音をシミュレートしたものです。この音量をお好みに合わせて調整することができます。（ピアノ 1 ～ 6 のみ）
電源 ON 時は、5 に設定されています。

［TOUCH］ボタンと［TRANSPOSE］ボタンを同時に押しながら、［E.PIANO/ORGAN］ボタンを押します。



［TOUCH］、［TRANSPOSE］、［E.PIANO/ORGAN］ボタンが点滅し、ディスプレイにメニュー名と現在の状態が交互に表示されます。

［VALUE］ボタンで値を設定します。

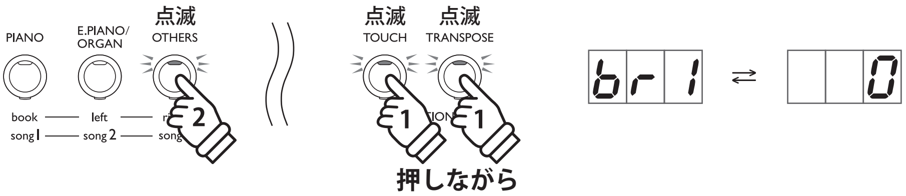


キーオフエフェクトの設定できる範囲は「1 ～ 10」です。

5 ブリリアンス（音色の明るさ）

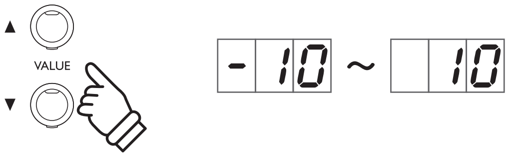
音色の明るさを調節します。
電源 ON 時は、0 に設定されています。

［TOUCH］ボタンと［TRANSPOSE］ボタンを同時に押しながら、［OTHERS］ボタンを押します。



［TOUCH］、［TRANSPOSE］、［OTHERS］ボタンが点滅し、ディスプレイにメニュー名と現在の状態が交互に表示されます。

［VALUE］ボタンで値を設定します。

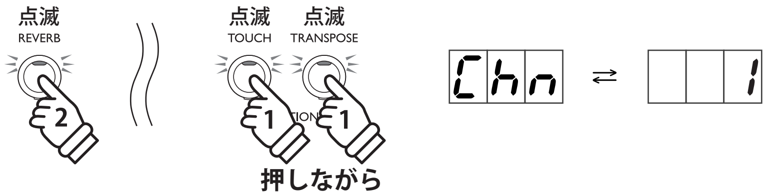


ブリリアンスの設定できる範囲は「− 10 〜＋ 10」です。
値が大きくなるほど音色が明るくなります。

6 MIDI 送受信チャンネル

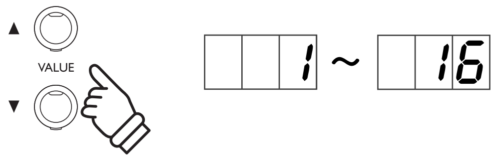
接続された MIDI 楽器といろいろな情報をやりとりするためには楽器同士のチャンネルを合わせておくことが必要です。
チャンネルは、送信チャンネルと受信チャンネルの 2 種類がありますが、本製品ではそれぞれ別々のチャンネルに設定することはできません。1 つのチャンネルを設定してそれが送信・受信両チャンネルを兼ねています。

［TOUCH］ボタンと［TRANSPOSE］ボタンを同時に押しながら、［REVERB］ボタンを押します。



［TOUCH］、［TRANSPOSE］、［REVERB］ボタンが点滅し、ディスプレイにメニュー名と現在の番号が交互に表示されます。

［VALUE］ボタンで値を設定します。



「1 ～ 16」の間で値を設定できます。

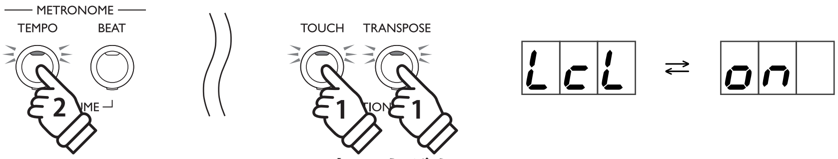
* 本機は電源 ON 時には、1 ～ 16 のすべてのチャンネルの情報を受信できる状態になっています。
これをオムニオンと呼びます。チャンネル設定を行うとオムニオフとなり、設定したチャンネルのみで受信するようになります。オムニオフで 1 チャンネルに設定したい場合は、一度チャンネルを 2 に設定してから 1 に戻してください。

* マルチティンバーモードが ON（P.39）の状態でデュアル演奏（P.12）した時、第 2 音色は、設定したチャンネル＋ 1 チャンネルで送信します。（但し、チャンネルを 16 に設定した場合は、1 チャンネルで送信します。）

7 ローカルコントロール

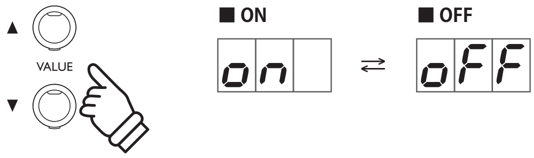
本製品の鍵盤を弾いて音を出すか、出さないかを設定します。
ローカルコントロールが ON の時は、通常通り鍵盤を弾くと本製品の音が鳴ります。
一方、ローカルコントロールが OFF の時は、鍵盤を弾いても音は鳴らず MIDI 情報を MIDI OUT し、外部からの MIDI 情報を受信したときのみ音が鳴ります。
電源 ON 時、ローカルコントロールは ON に設定されています。

［TOUCH］ボタンと［TRANSPOSE］ボタンを同時に押しながら、［TEMPO］ボタンを押します。



［TOUCH］、［TRANSPOSE］、［TEMPO］ボタンが点滅し、ディスプレイにメニュー名と現在の状態が交互に表示されます。

［VALUE］ボタンで「ON/OFF」を設定します。



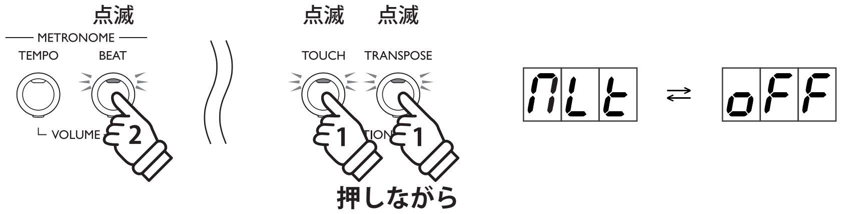
* OFF に設定した場合、鍵盤を押しても音はでません。

8 マルチティンバーモード

通常は、設定された MIDI チャンネル（1 ～ 16 のどれか 1 つ）で情報を送受信しますが、マルチティンバーモードを ON することにより、複数の MIDI チャンネルを受信して各々のチャンネルに対応した異なる音色を同時に出すことができます。受信プログラムナンバーに対応した音色は、付録の一覧（P.51）をご参照ください。電源 ON 時、マルチティンバーモードは OFF に設定されています。

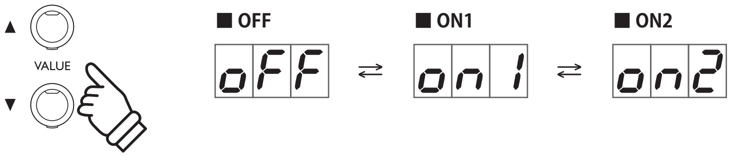
この機能により、外部にシーケンサーなどをつないで、本製品 1 台で複数の音色（マルチティンバー）によるアンサンブル演奏が可能です。

［TOUCH］ボタンと［TRANSPOSE］ボタンを同時に押しながら、［BEAT］ボタンを押します。



［TOUCH］、［TRANSPOSE］、［BEAT］ボタンが点滅し、ディスプレイにメニュー名と現在の状態が交互に表示されます。

［VALUE］ボタンで「ON1/ON2/OFF」を設定します。



マルチティンバーモード が OFF、ON1 のときに、プログラムナンバーを受信すると、P.40 の表左側のプログラムナンバーに対応した音色が選ばれます。

マルチティンバーモード が ON2 の時にプログラムナンバーを受信すると P.40 の表右側のプログラムナンバーとバンクナンバーに対応した音色が選ばれます。

9 プログラム（音色）ナンバー送信の ON/OFF

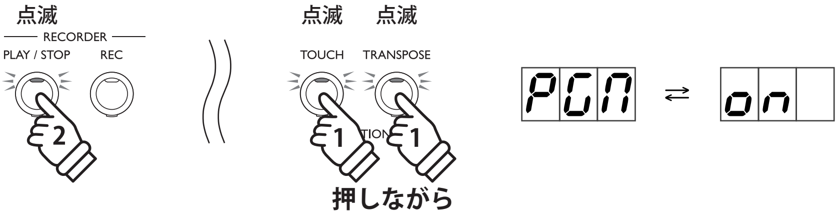
音色ボタンによるプログラムナンバーの送信 / パネル操作の送信

本製品では、音色を選ぶことによって下表に対応したプログラムナンバーを送信できるようになっています。
また、音色以外にも、タッチカーブ、デュアル、リバーブのボタン操作を MIDI エクスクルーシブデータとして送信することができます。
この音色を選ぶことによるプログラムナンバーの送信やボタン操作の送信は、次の方法により送信するか、しないか（ON/OFF）を選ぶことができます。
電源 ON 時、プログラムナンバー送信は ON に設定されています。

◆各音色に対応する送受信プログラムナンバー一覧

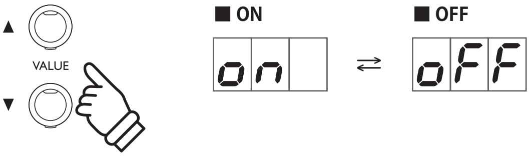
音色名	マルチティンバー OFF、ON1 の時	マルチティンバー ON2 の時		
	プログラムナンバー	プログラムナンバー	バンク MSB	バンク LSB
PIANO				
ピアノ 1	1	1	121	0
ピアノ 2	2	1	95	16
ピアノ 3	3	1	121	1
ピアノ 4	4	1	121	2
ピアノ 5	5	2	121	0
ピアノ 6	6	2	121	1
E.PIANO/ORGAN				
エレクトリックピアノ 1	7	5	121	0
エレクトリックピアノ 2	8	6	121	0
ジャズオルガン	9	18	121	0
チャーチオルガン	10	20	121	0
OTHERS				
ハープシコード	11	7	121	0
ビブラフォン	12	12	121	0
ストリングス 1	13	49	121	0
ストリングス 2	14	45	95	1
クワイア	15	53	121	0
ファンタジー 1	16	89	121	0
ファンタジー 2	17	100	121	0

［TOUCH］ボタンと［TRANSPOSE］ボタンを同時に押しながら、［PLAY/STOP］ボタンを押します。



［TOUCH］、［TRANSPOSE］、［PLAY/STOP］ボタンが点滅し、ディスプレイにメニュー名と現在の状態が交互に表示されます。

［VALUE］ボタンで「ON/OFF」を設定します。



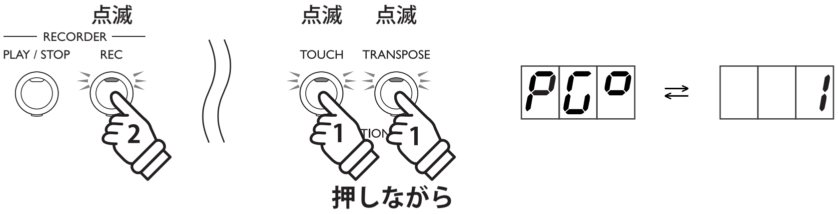
デュアルモード時には、デュアルモードの ON/OFF 情報、音色の設定などをエクスクルーシブで送信しますが、プログラムナンバーは送信しません。
（マルチティンバー ON1、ON2 のときは、送信します。）

様々な設定をする

10 プログラム（音色）ナンバー送信

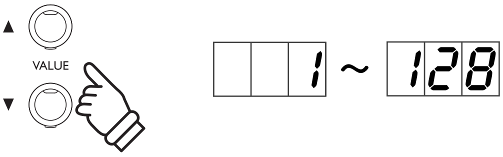
本製品では、1 ～ 128 までのプログラムナンバーを送信することができます。

［TOUCH］ボタンと［TRANSPOSE］ボタンを同時に押しながら、［REC］ボタンを押します。

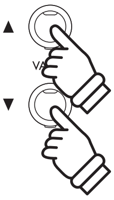


［TOUCH］、［TRANSPOSE］、［REC］ボタンが点滅し、ディスプレイにメニュー名と現在の状態が交互に表示されます。

［VALUE］ボタンでプログラムナンバーを設定します。



2 つの［VALUE］ボタンを同時に押すとプログラムナンバーの送信が実行されます。

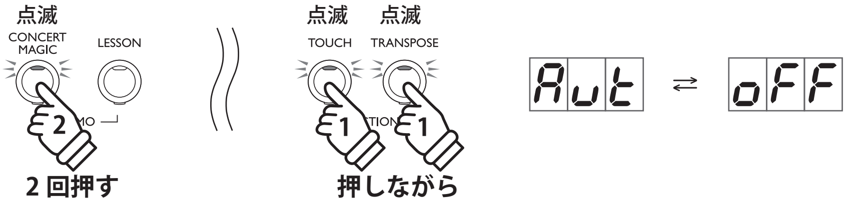


11 オートパワーオフ

本製品は、何も動作していない状態が一定時間続いたときに、自動で電源を切るように設定することができます。
このオートパワーオフ機能の設定は自動的に本体に保存されるので、一度電源を切っても設定は変わりません。
工場出荷時には OFF に設定されています。

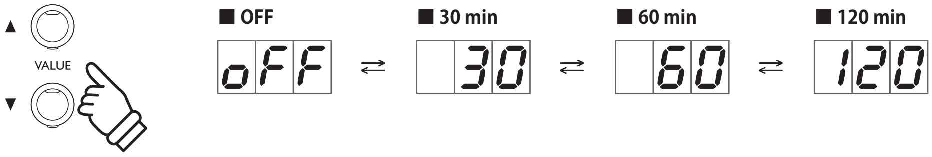
種類	内容
OFF	電源が自動で切れない設定です。
30min	30 分何も動作していない状態が続くと自動で電源が切れます。
60min	60 分何も動作していない状態が続くと自動で電源が切れます。
120min	120 分何も動作していない状態が続くと自動で電源が切れます。

［TOUCH］ボタンと［TRANSPOSE］ボタンを同時に押しながら、［CONCERT MAGIC］ボタンを 2 回押します。



［TOUCH］、［TRANSPOSE］、［CONCERT MAGIC］ボタンが点滅し、ディスプレイにメニュー名と現在の値が交互に表示されます。

［VALUE］ボタンで値を設定します。



MIDI について

MIDI（ミディ）とは、Musical Instrument Digital Interface の略称で、シンセサイザーやシーケンサーなどの電子楽器間を接続しお互いの情報をやりとりするするための世界統一規格です。

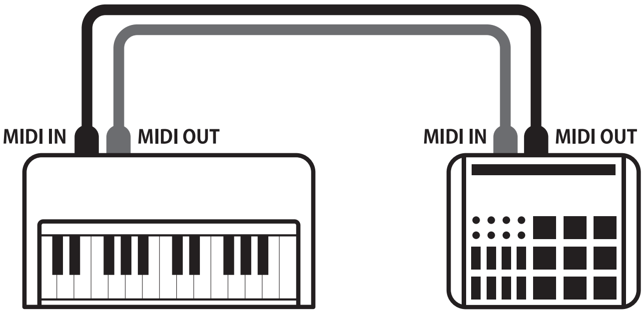
MIDI 端子の種類

本製品の MIDI 端子には、IN，OUT の 2 つの種類があります。いずれも MIDI 専用ケーブルで接続します。

MIDI 端子名	機能
IN	鍵盤情報や音色情報を受信します。
OUT	鍵盤情報や音色情報を送信します。

MIDI の使用例

図の様にシーケンサーに接続すれば、本製品の演奏をシーケンサーに録音し、それを再生することができデジタルピアノの練習に役立てることができます。また、本製品の設定をマルチティンバー ON（P.39 参照）にして録音 / 再生を行えば、ピアノ、ハープシコード、ビブラフォンなど複数の音色によるアンサンブル演奏を楽しむことができます。



本製品の MIDI 機能

鍵盤情報の送信・受信

本製品を弾いて MIDI で接続したシンセサイザー等から音を出したり、その逆が可能です。

送信・受信チャンネルの設定

送信受信チャンネルを 1 ～ 16 の範囲で設定することができます。

プログラム（音色）ナンバーの送信・受信

本製品を弾いて MIDI で接続したシンセサイザーの音色を変えたり、その逆が可能です。

ペダル情報の送信・受信

ダンパーペダル、ソフトペダル、ソステヌートペダルの ON/OFF 情報の送信・受信ができます。

ボリューム情報の受信

シンセサイザー等を弾いて、本製品の音を出しているとき、シンセサイザーで本製品の音量をコントロールすることができます。

マルチティンバーの設定

本製品が受信楽器になっているとき、複数の異なるチャンネルで鍵盤情報を受信して、各々別の音を出すことができます。

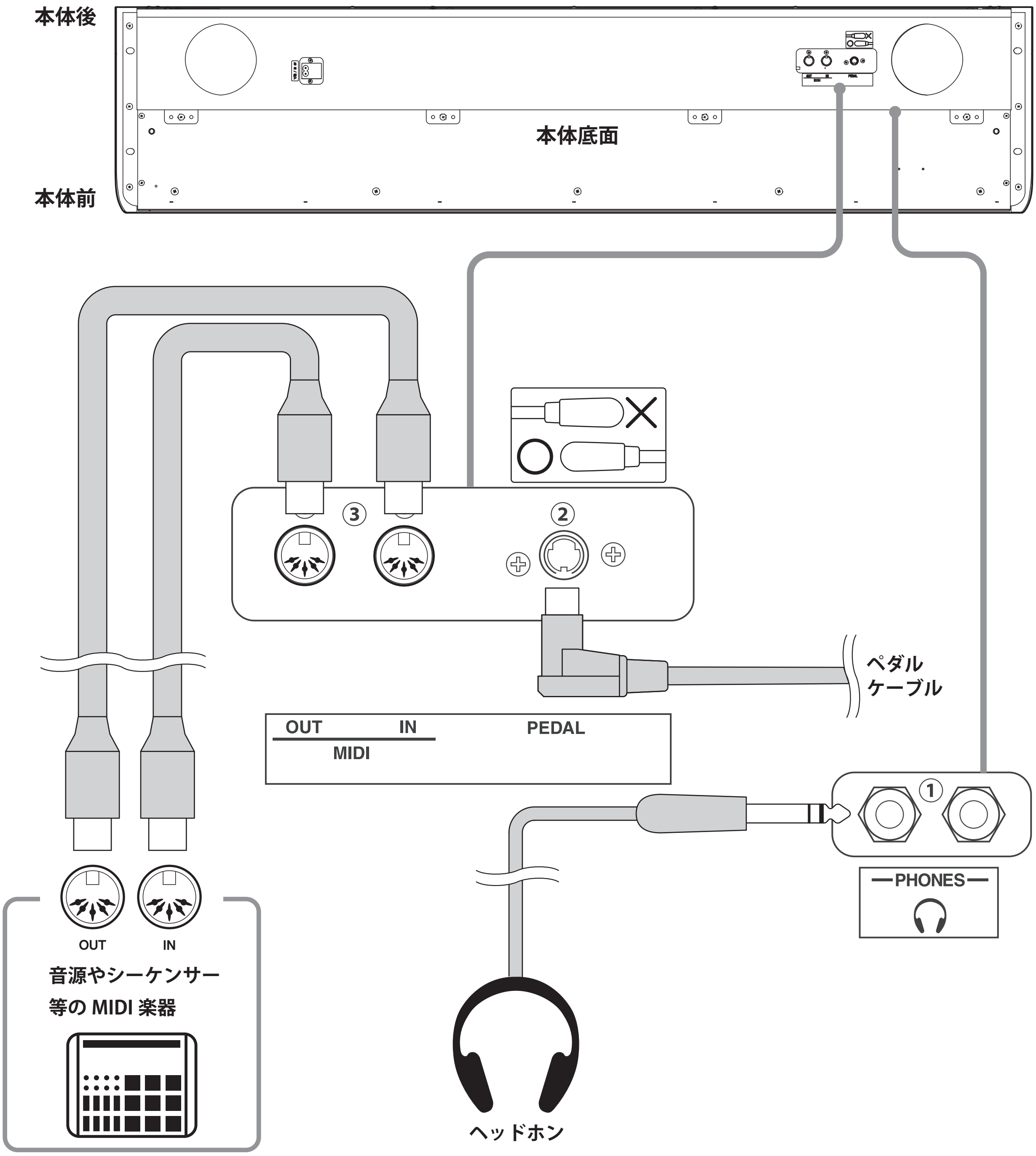
エクスクルーシブデータの送信・受信

フロントパネルの操作や設定モードで変更した設定をエクスクルーシブデータとして送信受信ができます。

本製品の MIDI 機能についての詳細は、「MIDI インプリメンテーションチャート」（P.52）をご覧ください。

* “MIDI” は、社団法人音楽電子事業協会（AMEI）の登録商標です。

他の機器との接続



① PHONES（ヘッドホン端子）

ヘッドホンを接続する端子です。2 本まで接続できます。

② PEDAL（ペダル端子）

ペダルユニットから出ているペダルケーブルを接続する端子です。

③ MIDI（ミディ端子）

MIDI 規格に対応している楽器と接続する端子です。

他の機器と接続する時は本製品の電源を切ってから行ってください。電源が入っている時に行うとノイズ音が発生し、アンプの保護回路が働き本製品の音が出なくなることがあります。出なくなった場合はもう一度電源を入れ直して下さい。

困ったときは？

音が出ない

1. ローカルコントロールがオフになっていませんか？（P.38 参照）

2. ヘッドホンが接続されていませんか？（P.9 参照）

3. 音量が 0 になっていませんか？（P.9 参照）

ヘッドホンを使っていないのに、スピーカーから音が出ない

付属のヘッドホンには、プラグにアダプターが付いています。このアダプターが楽器に付いたままになっていると、スピーカーからの音は出ません。

特定の演奏、特定の音域で音が歪む

ボリュームを大きくすると、演奏によっては音が歪む場合があります。その場合、音量を小さくして使用してください。

特定のピアノ音色で異音やノイズが聴こえる

グランドピアノの音は様々な響きが複雑に混ざり合うことで豊かな音色を実現しています。それらの響きの中には、金属的な音やノイズ系の音も含まれています。また 1 鍵 1 鍵異なる響きをもっています。本製品はピアノに限りなく近い音を実現させているため、このような音も再生されます。これは異常ではありません。

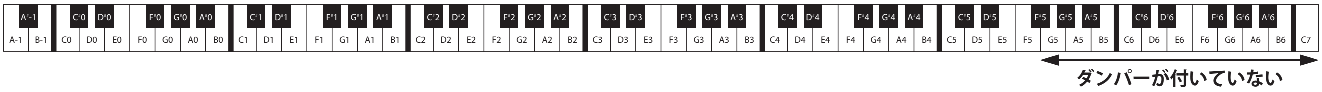
ペダルがきかない / きいたりきかなかったりする

1. ペダルコードと楽器の接続をご確認ください。接続されていた場合は、一度抜いてカチッと音がするまでしっかりと差しなおしてみてください。

2. アジャスターが適正な長さになっているか、ご確認ください。

高音域で、ダンパーが効かない

ピアノにおいて、一番高い領域の鍵盤（下図）にはダンパーという止音装置が付いておりません。本製品ではその機構を忠実に再現しているため、その鍵盤についてはダンパーペダルを踏んでも踏まなくても音が伸びます。



ペダルを踏むと、ぐらぐらする

アジャスターが適正な長さになっているか、ご確認ください。

レッスン曲がスタートしない

曲を選んだあと、[PLAY / STOP］ボタンを押してください。

パネルディスプレイ（3 桁 LED）が消えている

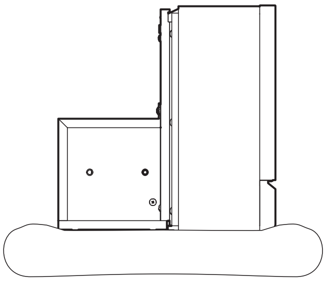
通常モードでは音色を切りかえた時に数秒間音色番号を表示した後消えます。

付録

LS1 の組み立て方

本機を組み立てる際は、パーツがすべてそろっていることを確認し、床や本体を傷つけないように注意してください。
（解体は、組み立てと逆の手順でおこなってください。）

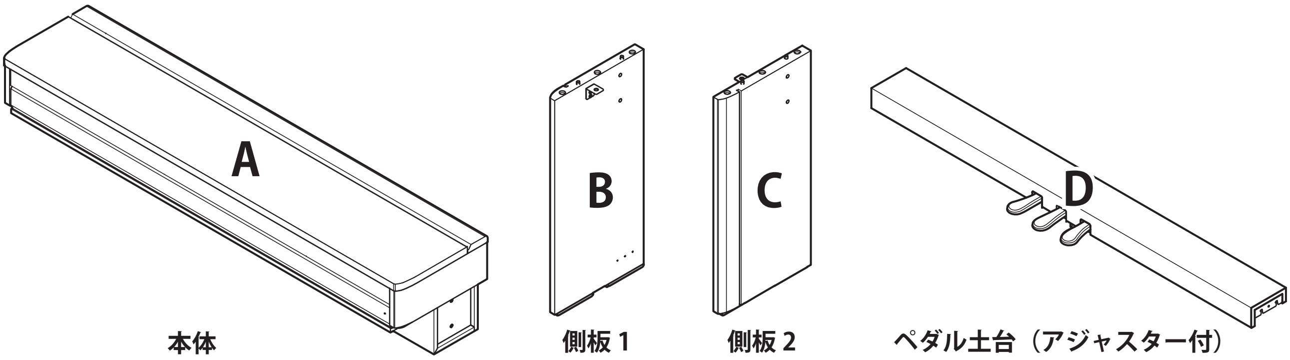
組立作業は必ず 2 人で行ってください。
本機を移動するときは、水平に持ち上げるようにし、手をはさんだり、足の上に落とさないよう十分注意してください。



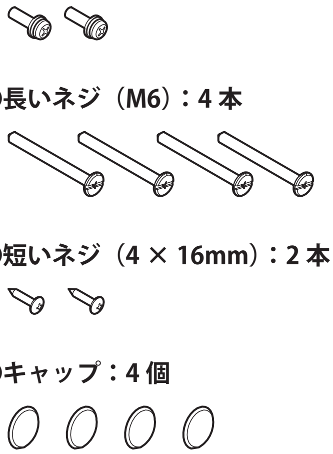
本体を床に置く時は、本体や床を傷つけないように、柔らかい毛布などを挟んで置くようにしてください。（左図参照）
その上に、A- 本体を図のような向きに置きます。
このとき、鍵盤蓋を固定している青いテープは取り外さないでください。
青いテープは、設置が終わってから取り外してください。

パーツ

組み立てる前に、部品がそろっていることを確認してください。
また、プラスドライバーをご用意ください。



本体　側板 1　側板 2　ペダル土台（アジャスター付）

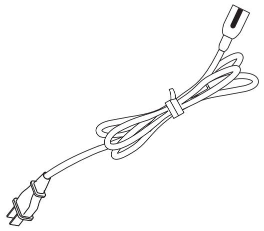


ⓐネジ（ワッシャー付き）：2 本

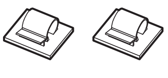
ⓑ長いネジ（M6）：4 本

ⓒ短いネジ（4 × 16mm）：2 本

ⓓキャップ：4 個



電源コード



コードクランプ

ヘッドホンフックセット

ヘッドホンフック　取付ネジ（4 × 14mm）：2 本

1. A- 本体に B- 側板（左）を取付ける

1- 1

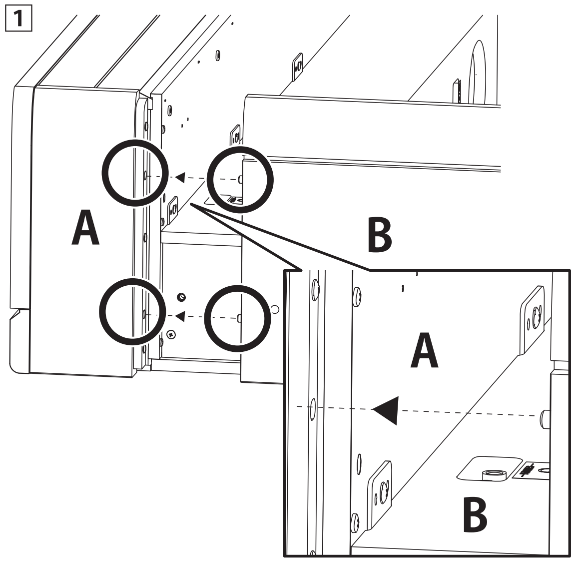
B の突起部を A の穴に挿し込みます。

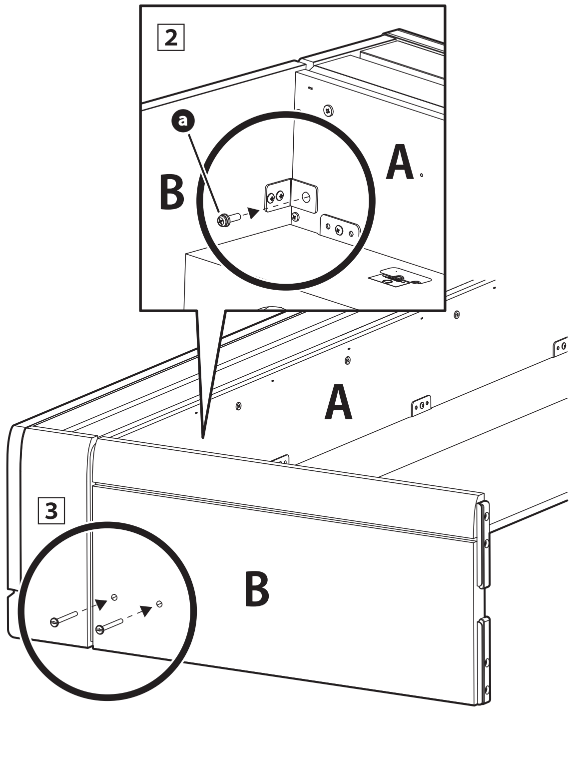
1- 2

B を A へぴったりと押しあてて、ⓐネジ（ワッシャー付き）を取り付け固定します。

1- 3

ⓑ長いネジ（ワッシャー付き）2 本で、B と A を固定します。





2. D- ペダル土台を取付ける

2- 1

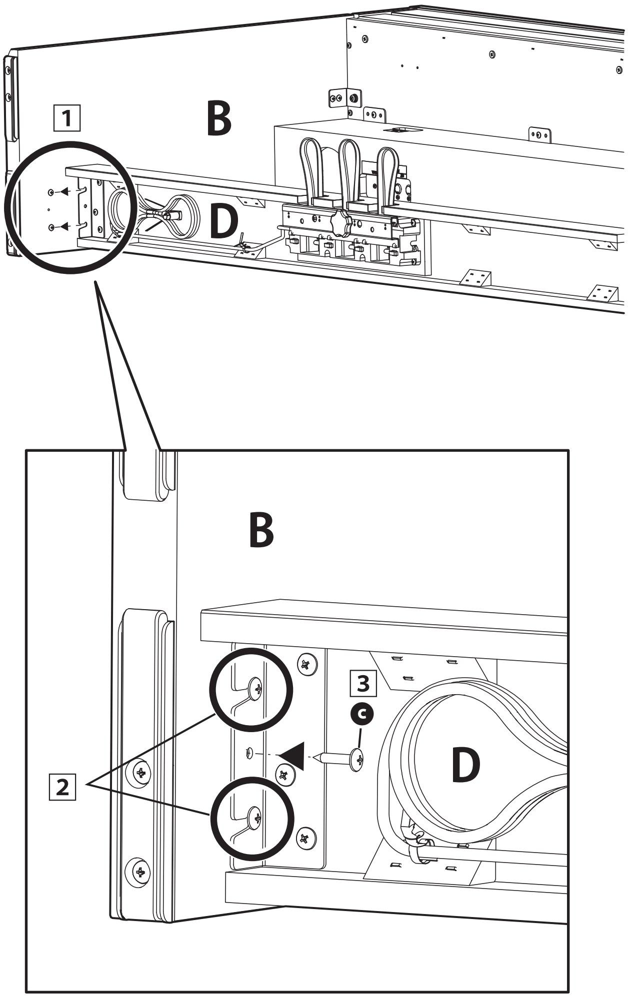
D の金具の溝に B に仮留めされているネジをはめ込みます。

2- 2

B と D をぴったりと押しあてて、仮留めネジを締めます。

2- 3

中央のネジ穴にⓒ短いネジ（4 × 16mm）で固定します。



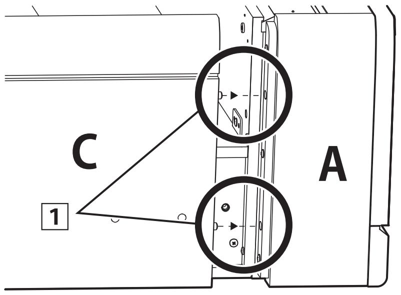
LS1 の組み立て方

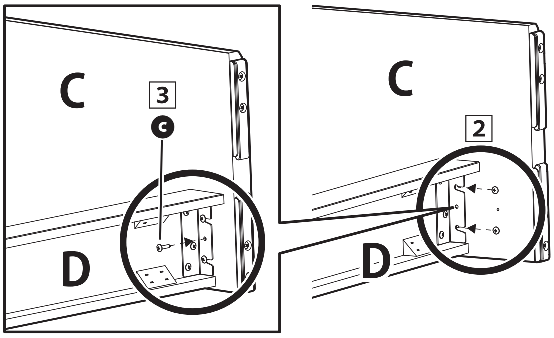
3. C- 側板（右）を取付ける

3-1
1- 1と同様に、C の突起部を A の穴に挿し込みます。

3-2
2- 1、2- 2と同様に、D の金具の溝に C に仮留めされているネジをはめ込み、C と D をぴったりと押しあてて、仮留めネジを締めます。

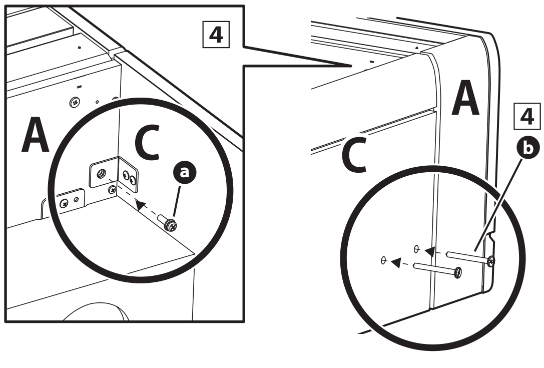
3-3
中央のネジ穴にⓒ短いネジ（4 × 16mm）で固定します。





3-4
残りのネジを固定します。
C を A へぴったりと押しあてて、ⓐネジ（ワッシャー付き）を取り付け固定します。
ⓑ長いネジ（M6）2 本で、C と A を固定します。

> ⚠ **手をはさんだり、本体を落としたりしないよう十分ご注意ください。**



4. 全体を起こす

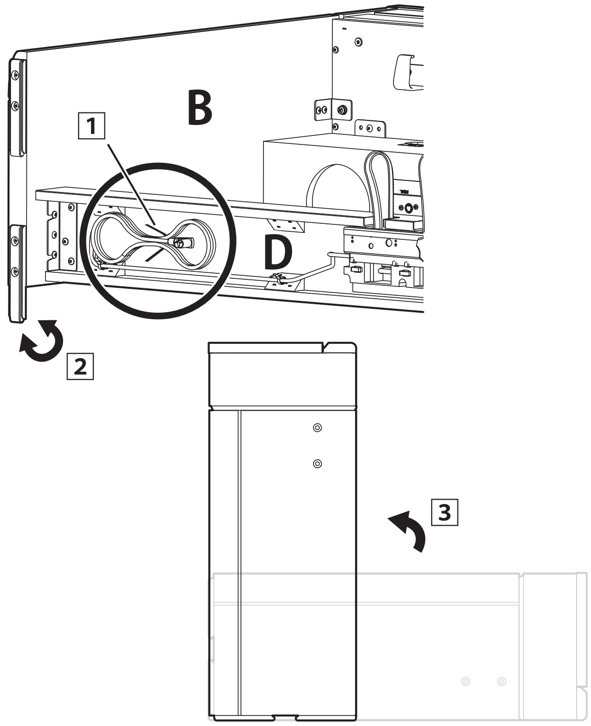
4-1
D に結ばれているペダルコードをほどいて（1 箇所のみ）、コードを引き出してください。

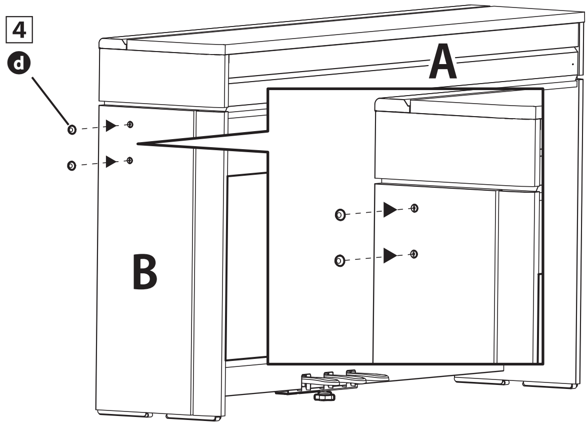
4-2
転倒防止金具を使用する場合は、全体を起こす前に、金具の向きを 180 度回転させてください。

4-3
図のように全体を起こします。

4-4
ネジの頭にⓓキャップをはめこみます。

> ⚠ **必ず付属のネジでしっかりと固定してください。固定しないと、本体がスタンドから落ち大変危険です。**





付録

5. ペダルコード・電源コードを取付ける

5-1

ペダルコードを A のスピーカーボックスの底面にあるペダル端子に接続します。

5-2

コードクランプを B の背面に取り付け、ペダルコードを固定します。

※クランプが不要な方は、取り付ける必要はありませんので、取扱説明書と一緒に保管してください。

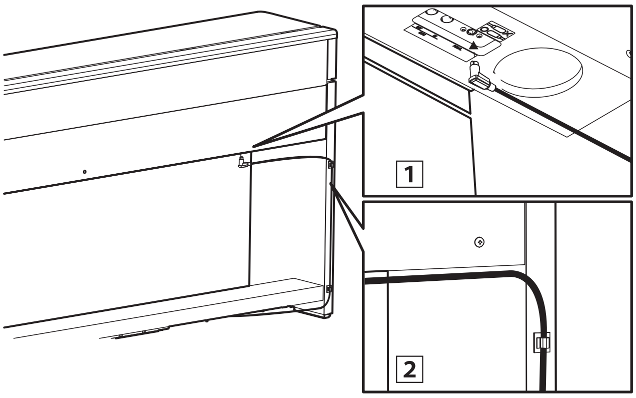
5-3

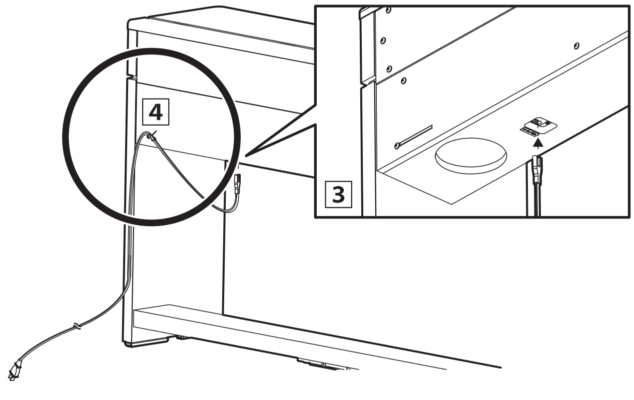
電源コードを A のスピーカーボックスの底面にある AC IN 端子に接続します。

5-4

電源コードを A のスピーカーボックスの背面にあるバインド金具で固定します。

※電源コードが邪魔にならない方は、バインド金具への固定は不要です。

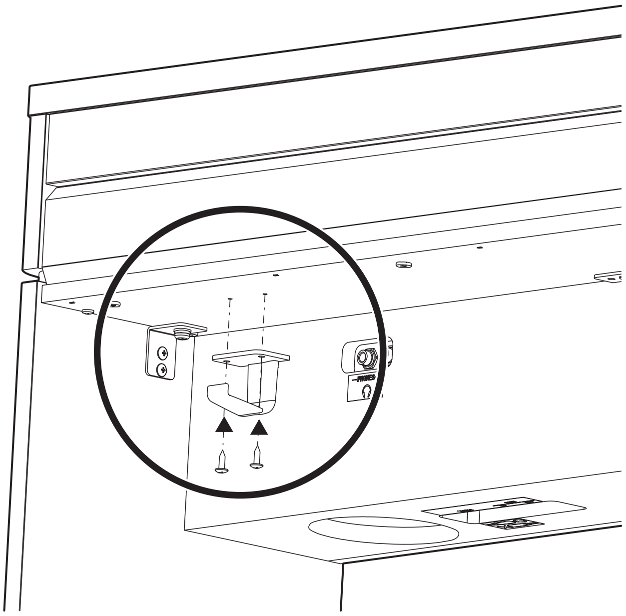




6. ヘッドホンフックを取り付ける

6-1

ヘッドホンフックを同じ袋に入っているネジ 2 本で図のように取り付けます。

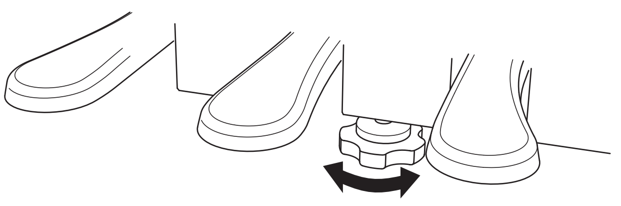


7. アジャスターを回す

7-1

アジャスターを床にぴったり付くまで回します。

> ⚠ **アジャスターをしっかり床につけないと、ペダル土台が壊れる恐れがあります。**
> **なお、移動の際は引きずらないよう、必ず床から持ち上げて移動してください。**



LS1 仕様

鍵　盤	レスポンシブ・ハンマー・アクションII（RHII）/ アイボリータッチ / レットオフフィール
同時発音数	最大 192 音（音色により異なる）
音　色（17 音色）	ピアノ 1、ピアノ 2、ピアノ 3、ピアノ 4、ピアノ 5、ピアノ 6、 エレクトリックピアノ 1、エレクトリックピアノ 2、ジャズオルガン、チャーチオルガン、 ハープシコード、ビブラフォン、ストリングス 1、ストリングス 2、クワイア、 ファンタジー 1、ファンタジー 2
ディスプレイ	7 セグメント LED
リバーブ	ルーム、ラウンジ、スモールホール、コンサートホール、ライブホール、カテドラル
メトロノーム	1/4、2/4、3/4、4/4、5/4、3/8、6/8 拍子
レコーダー	1 トラック× 3 ソング、総記憶音数　約 15,000 音
デモ曲	音色デモ 17 曲＋クラシカルピアノコレクション 29 曲
コンサートマジック	全 40 曲
レッスン	練習曲：バイエル 126 曲（バリエーション 20 曲を含む）、ブルクミュラー 25 曲、チェルニー 30 曲、 右手左手個別再生可、テンポ変更可
タッチカーブ	ノーマル、ライト 1、ライト 2，ヘビー 1、ヘビー 2、OFF
トランスポーズ	-12 ～ +12 半音
その他の機能	デュアルモード、4 ハンズモード、リバーブ、タッチ、トランスポーズ、 チューニング、音律、ダンパーレゾナンス、キーオフエフェクト、ブリリアンス、 MIDI 設定機能、オートパワーオフ、パネルロック
ペダル	ダンパー（ハーフ対応）、ソフト、ソステヌート
キーカバー	回転式
外部端子	ヘッドホン（2）、MIDI（IN、OUT）
出　力	20W × 2
スピーカー	12cm × 2（スピーカーボックス入り）、5cm × 2
定格電圧	AC100V、50/60Hz
消費電力	30W
寸　法	蓋を閉めたとき：W137 × D31 × H78.5（cm）※1 蓋を開けたとき：W137 × D36 × H99.5（cm） ※1　転倒防止金具を使用する場合は、D36（cm）となります。
重　量	45kg
同梱品	本体 / スタンド / 保証書 / 取扱説明書（本書）/ カワイデジタルピアノ ユーザー登録のご案内 / 音楽教室のご案内 / 楽譜集のご案内 / クラシカルピアノコレクション（楽譜集）/ コンサートマジック曲集 払込取扱票 / 高低自在椅子 / 電源コード / ヘッドホン / ヘッドホンフック / スタンド組立説明書

各音色に対応する送受信プログラムナンバー一覧

音色名	マルチティンバー OFF、ON1 の時	マルチティンバー ON2 の時		
	プログラムナンバー	プログラムナンバー	バンク MSB	バンク LSB
PIANO				
ピアノ 1	1	1	121	0
ピアノ 2	2	1	95	16
ピアノ 3	3	1	121	1
ピアノ 4	4	1	121	2
ピアノ 5	5	2	121	0
ピアノ 6	6	2	121	1
E.PIANO/ORGAN				
エレクトリックピアノ 1	7	5	121	0
エレクトリックピアノ 2	8	6	121	0
ジャズオルガン	9	18	121	0
チャーチオルガン	10	20	121	0
OTHERS				
ハープシコード	11	7	121	0
ビブラフォン	12	12	121	0
ストリングス 1	13	49	121	0
ストリングス 2	14	45	95	1
クワイア	15	53	121	0
ファンタジー 1	16	89	121	0
ファンタジー 2	17	100	121	0

KAWAI [Model LS1] MIDI インプリメンテーションチャート

Date : June 2013
Version : 1.0

ファンクション		送信	受信	備考
ベーシックチャンネル	電源 ON 時	1	1	
	設定可能	1 〜 16	1 〜 16	
モード	電源 ON 時	モード 3	モード 1	* 電源 ON 時オムニオン。MIDI チャンネル設定操作によりオムニオフ。
	メッセージ	×	モード 1, 3*	
	代用	＊＊＊＊＊＊＊＊＊	×	
ノートナンバー		9 - 120**	0 - 127	** 9 - 120 トランスポーズを含む。
	音域	＊＊＊＊＊＊＊＊＊	0 - 127	
ベロシティ	ノート・オン	○	○	
	ノート・オフ	○	○	
アフタータッチ	キー別	×	×	
	チャンネル別	×	×	
ピッチ・ベンド		×	×	
コントロールチェンジ	7	×	○	ボリューム
	64	○（右ペダル）	○	ダンパー
	66	○（中ペダル）	○	ソステヌート
	67	○（左ペダル）	○	ソフトペダル
プログラムチェンジ 設定可能範囲		○	○	（プログラムチェンジ対応表参照）［P.40］
エクスクルーシブ		○	○	送信選択可能
コモン	ソングポジション	×	×	
	ソングセレクト	×	×	
	チューン	×	×	
リアルタイム	クロック	×	×	
	コマンド	×	×	
その他	ローカル ON / OFF	×	○	
	オールノートオフ	×	○	
	アクティブセンシング	×	○	
	リセット	×	×	
備　考				

モード 1 : オムニオン、ポリ　　モード 2 : オムニオン、モノ　　○ : 有り
モード 3 : オムニオフ、ポリ　　モード 4 : オムニオフ、モノ　　× : 無し

付録

株式会社 河合楽器製作所
電　子　楽　器　事　業　部
〒430-8665 浜松市中区寺島町200番地
TEL. 053-457-1277 / FAX. 053-457-1279
http://www.kawai.co.jp/

お問合せ先について

ご不明な点などがございましたら、下記のお客様相談室をご利用下さい。

◆お客様相談室

TEL. 053-457-1311 / E-mail. customer@kawai.co.jp
電話受付時間　9：00 ～ 12：00 / 13：00 ～ 17：00
（土曜、日曜、祝日及び弊社規定の休日を除きます。）

◆お客様サポート・お問合せフォーム

http://www.kawai.co.jp の「お客様サポート」よりお進みください。

故障と思われる場合については、お買い求めいただいた販売店、もしくはお近くのフィールドサポート担当までご連絡ください。
詳細は同梱の「アフターサービスと音楽教室のご案内」の冊子をご参照ください。

KPSZ-0668
Printed in Indonesia
©2013（株）河合楽器製作所
本取扱説明書の一部、あるいは全部を無断で複写・転載することを禁止します。
817899-R101